二　税務管理局と税務署の創設

8　明治29年10月　官制改正に付大蔵大臣訓示

明治二十九年十月三十日

大蔵大臣［松方正義］訓示

新官制ノ効果ヲ収ムルト否トハ繫リテ局長以下当局者ノ双肩ニ在リ、其責ヤ重ク其任ヤ大ナリ、局ニ茲ニ当ルモノ豈ニ深ク戒メサルヘケンヤ

法律ノ妙用ハ実用ノ上ニ在テ法文ノ上ニアラス、故ニ法文如何ニ完備ナリト雖トモ、之レカ執行ノ局ニ当ルモノニシテ苟モ其運用ヲ愆ルアラハ、是レ死法ノミ、徒文ノミ、又焉ソ其妙用ヲ望ムヘケンヤ

今ヤ官制ノ改革ニ方リ税務ノ組織ハ其面目ヲ一新シ、全ク地方庁ト其関係ヲ絶ツニ至リタルカ如キノ観アルモ、其実際ニ於テハ決シテ然ラス、夫レ管理局ノ地方庁ニ於ルハ猶庶流ノ宗家ニ於ルカ如ク、因襲ノ久シキ縁故ノ深キ又絶ント欲シテ絶ツヘキニアラス、故ニ両々相交渉シ気脈相通シ円滑以テ事ヲ処シ、苟モ反目軋轢スルカ如キコトアルヘカラス、郡役所警察署等ニ対スルモ亦宜シク此意ヲ体スヘク、殊ニ市町村役場ニ至リテハ尚一層密接ノ関係ヲ有スルヲ以テ、尚更協和ノ実ヲ尽シ以テ実務ノ運渉ヲ黽ムヘシ

税務ノ実質ヨリシテ諸般ノ事務総テ慎重緻密ヲ要スル固ヨリ其所ナリ、之ヲ以テ其手続方式ノ自ラ複雑ニ渉ルハ又免ルヘカラサル所ナリト雖トモ、徒ニ事ヲ繁細ニシ人民ノ煩ヲ増シ、或ハ時間ヲ空過セシムルカ如キハ、最モ之ヲ警メサルヘカラス、故ニ事ヲ処スルハ簡捷ヲ主トシ、人ニ接スルニ専ラ親切ヲ旨トシ、機敏果断ヲ要スト雖トモ、動モスレハ粗漏暴慢ニ流ルヽノ虞ナキニアラス、故ニ機敏ニシテ緻密ヲ兼ネ、果断ニシテ温和ヲ失ハサルヲ旨トスヘシ

税務ノ要義ハ義務者ヲシテ正当ノ課額ヲ負ハシムルヲ以テ目的トス、故ニ苟モ逋税ヲ企図スル者ノ如キハ制裁ノ在ル所ニ従ヒ、又仮借ヲ要セスト雖トモ、平素取締ノ周到ナラサルモノ亦間接犯則ノ誘引タルコト之ナキヲ保セス、或ハ無知ノ細民ニ至リテハ法規ノ何タルヲ弁セス、不知不識ノ間犯則ニ陥ルモノ亦之ナキヲ必セス、抑モ検税ノ事務ハ法規ニ従ヒ租税徴収ノ基ヲ明ニシ、脱税ナカラシムルヲ以テ主要トス、其作用ニ至テハ課税物件ヲ検査シ、以テ賦税ノ基礎ヲ量定スルカ如キ、純然タル行政事務ニ属スルモノアリ、或ハ犯則者ヲ捜査検挙スルカ如キ税務警察ニ属スルモノアリト雖トモ、皆此主要ノ目的ヲ達スルノ順序ニ外ナラス、故ニ当局者ハ能ク此区別ヲ明ニシ、行政事務ハ常ニ遵フヘキノ道ニシテ、警察ハ権ニ処スル法ナルヲ思ヒ、日常事ヲ執ルニ方リテハ懇切ヲ旨トシ、指導訓誨人民ヲシテ其理義ノ在ル所ニ安シ、納税ヲ栄トスルノ観念ヲ生セシムルト共ニ、又其取締ヲ忽ニセス以テ犯則ヲ未萌ニ防遏シ、遂ニ全ク其跡ヲ絶ツニ至ラシメンコトヲ期スヘシ

（平4　広島　2-1）

9　明治29年10月　局署印と門標の寸法雛形

局署印門標ノ寸法雛形ノ件

明治二九年一〇月　主秘一六七号主税局長通牒

今般税務管理局被置候ニ付テハ、各自官印ノ義ハ夫々任命ノ上調製可然モ、差向キ局署印標札ハ必要ニ付、左ノ雛形ニ依リ手繰ノ為メ調製方御命シ相成度、尤徴税費支出上ノ都合モ有之候間、代価請求ハ施行後管理局ヘ申出サセ、同局ヨリ支払フヘキ都合ニ御取計置相成度

（雛形）

印　方一寸五分

何々税務管理局之印

印　方一寸一分

何々税務署之印

門標　寸法適宜

何々税務管理局

門標　寸法適宜

何々税務署

（昭53　東京　107－1）

10　明治29年11月　税務管理局官制施行に付大蔵大臣内訓

官房秘第九五〇号

税務管理局長

税法ノ執行ハ汎ク一般人民ノ権利財産ニ関係ヲ及スコト尠カラサルヲ以テ、苟モ税務ニ従事スル官吏ノ其ノ事務ヲ処弁スルニ当リテハ、一ニ公正忠実ヲ旨トシ常ニ法令ノ規定スル所ニ遵ヒ、其正当ナル範囲ト歩歩ヲ同一ニシテ、仮ニ

モ其域外ニ超逸シ又ハ其ノ圏内ニ収縮スルコトアルヘカラス、今ヤ税務制度更革シ其ノ面目ヲ一新セムトスルニ際シ、当時吏員ノ各々謹厳其職ニ励ミ熱誠奮勉ヲ要スルハ勿論、之カ上司タル者ノ監督指導モ亦切々偲々特ニ注意ヲ加ヘテ、税法ノ執行上ニ過不及ノ弊ナカラシムルヲ期セサルヘカラス、今ヨリ宜シク此ノ意ヲ体シ、左ノ条項ニ則リ能ク監督ノ実ヲ挙ケ税務ノ整理ヲ全クスヘシ

第一条　税務管理局長ハ、税務ノ監督ヲ為スニハ大率ネ左ノ事項ニ付常ニ注意スヘシ

一　法律、命令、訓令等実施ノ状況

二　国税賦課、徴収ノ取扱方、法律規則ニ背カサルヤ否

三　諸般ノ簿書、図面等整理方宜シキヲ得ルヤ否

四　検査ニ関スル計画ハ実施上ニ適スルヤ否、又其成蹟如何

五　職員ノ配置、事務担当ノ適否

六　職員ノ勤惰能否、執務ノ状況

七　国税滞納者及犯則処分ノ実況

八　保管ニ係ル現金及諸物品ノ取扱方宜キヲ得ルヤ否

前項ノ外、左ニ掲クル事項ハ間接ニ税務ニ関係ヲ及ホスヘキニ付常ニ注意ヲ要ス

一　土地売買価格ノ高低及登量ノ実況、其他米価、利子ノ昂低、金融等ノ如何

二　税務上人民ノ感触及諸営業ノ盛衰如何

三　署長以下他官衙ニ対スル関係及其ノ人民ニ対スル待遇ノ模様、人民ノ署員ニ対スル感情如何

四　課税物件ノ増減、滞納者及犯則者ノ多寡並ニ其原因如何

五　運輸交通ノ便開クルニ従ヒ課税物件及被税者ニ及ホスヘキ影響如何

第二条　税務管理局長ハ少クモ毎年一回各税務署ヲ巡回シ、第一条ニ掲クル事項ハ勿論、其他必要ト見認ムル事項ニ付監督ヲ行ナヒ、尚必要ト見認ムルトキハ実地検査ヲ視察スルヲ要ス

第三条　税務管理局長ハ税務監督員ヲシテ常ニ各税務署ニ就キ、第一条ニ掲クル事項、其他必要ト見認ムル事項ヲ指示シテ視察ヲ行ナハシメ、尚実地ニ就キ左ノ事項ヲ視察セシムルヲ要ス

一　土地丈量ノ検査、地価、年期査案方ノ精粗、当否

二　酒類、醤油其他課税物件検査方ノ当否

三　自家用酒ノ製造及諸営業者検査取締方ノ適否

四　検査手帖記載ノ精粗及検査ニ関スル簿書整理方宜シキヲ得ルヤ否

五　検査員ノ執務上人民ニ不便ヲ感セシムル等ノ措置ナキヤ否

六　諸税検査又ハ犯則取調ニ際シ寛厳其ノ宜シキヲ得ルヤ否

七　検査員任務ノ適否及職務執行上不注意怠慢ノ措置ナキヤ否

八　其他必要ナル事項

第四条　税務管理局長ハ税務署長ニ対シテハ監督上ノ必要ニ応シテ事実ノ答弁ヲ求メ、又ハ実務ノ処理ニ付意見ヲ求ムル等、常ニ税務ノ挙ランコトニ注意スルヲ要ス

第五条　税務管理局長ハ税務施行上常ニ税務署長ヲ督励シ、正当ニ敏活ニ事務ノ行ナハレンコトニ注意スルヲ要ス

第六条　税務管理局長税務監督員ヲ派遣スルトキハ、視察ノ事蹟ヲ明ニスル為メ相当ノ方法ヲ設ケ監督ノ実ヲ挙ケシムルコトニ注意スヘシ

第七条　税務管理局長ハ税務監督員ヨリ各税務署ニ於ケル視察ノ結果ヲ報告シタルトキハ、事務上改良又ハ注意ヲ要スルト見認ムルトキハ、税務署長ニ改良又ハ注意ヲ促シ、若シクハ税務監督員ヲシテ注意セシムル等、事ノ大小軽重ニ応シ相当ニ処分スルヲ要ス

第八条　税務管理局長ハ税務監督員ヲ派遣スルニ当リ、税務署長其他ノ署員ニ対シ親ク訓示注意等ヲ与ヘントスルトキハ、税務監督員ヲシテ之ヲ伝ヘシメ、又ハ其趣旨ヲ示シ税務監督員ヲシテ臨機注意ヲ与ヘシムル等、成ルヘク簡捷ヲ旨トスヘシ

右内訓ス

明治二十九年十一月一日

大蔵大臣伯爵　松方正義

（平5　大阪　3-1）

11　明治29年11月　税務官吏服務心得

秘第二一号

本局各課
税務署

臣民納税ノ義務ハ法律ニ依ルニアラサレハ之ヲ定ムル能ハス、税務官吏ハ実ニ租税法規ノ執行ヲ任トスルモノニシテ、其処弁ノ結果ハ直ニ臣民ノ休戚、政府ノ歳入ニ関ス、事ニ此職務ニ従フモノ自ラ其任務ノ軽カラサルヲ省ミ、常ニ慎

重ノ注意ヲ為シ、苟モ過誤遺漏ナカランコトヲ期セサルヘカラス、茲ニ税務官吏服務心得ノ梗概ヲ記シ、以テ其任務ヲ完行スルニ就キ服膺スヘキ綱目ノ大要、左ノ如シ

第一条　凡ソ税務ノ執行ハ法規ノ定ムル所ニ遵ヒ課税ノ基礎ヲ明カニシ、規定以外ノ徴収ヲ為サス、又規定以内ニ於テ逋脱ナカラシムルヲ以テ其目的トス、物件ノ査定、簿書ノ整理、不正行為ノ予防、犯則事件ノ検挙、共ニ皆此目的ヲ達スルノ手段方法ニ外ナラス、税務官吏ハ常ニ此意ヲ体シ処理措弁、都テ此目的ニ帰着スルヲ期スヘシ

第二条　事務ノ処理ハ固ヨリ周到緻密ナルヲ要スト雖モ、徒ニ事ヲ繁細ニシ人民ノ冗煩ヲ致シ、又ハ時間ヲ空過セシムルガ如キコトアルベカラズ

第三条　人民ニ対スルハ須ク悃切叮嚀ナルヘシト雖モ、自ラ職務ノ分限ヲ守リ漫リニ民業ニ干渉シ、又ハ納税者ト昵狎スベカラス

第四条　職ニ当テハ宜シク厳正ニシテ熱心ナルヘシ、然レトモ検束ニ過キテ人民ノ情意ヲ竭サシメス、苛察ニ渉リテ細故ノ摘発ヲ事トスルカ如キコトアルヘカラス

第五条　事ヲ執ルハ当サニ敏活ニシテ果断ナルベシ、然レトモ粗漏ニ流レテ緻密ヲ欠キ、暴慢ニ陥リテ温和ヲ失フ可カラズ

第六条　税務ニ在テハ算数ノ事最モ其多キヲ占ム、而シテ其正否ハ直チニ徴税ノ当否ト相関係ス、故ニ算数ノ事ニ於テハ最モ心ヲ用ヒ違算誤謬ナキヲ期スベシ

第七条　逋税犯則ニ固ヨリ種々ノ原因アルヘシト雖モ、亦日常取締ノ緊否ニ関スルコト大ナリ、之ヲ事後ニ検挙スベキハ勿論ナリト雖モ、最モ之レヲ未前ニ予防スルコトニ注意セザルベカラズ

第八条　税務上ノ取締ハ形式ニ流レズ実効アルヲ要ス、又公平無私ニシテ人ニ於テ寛厳同シカラサルガ如キコトアル

ベカラズ

第九条　税務官吏ハ職務ニ服スル忠実ヲ旨トシ、同僚ニ対シテハ礼譲ヲ重ンジ、各自其地位ニ従テ職分ヲ尽シ、互ニ同心協力シテ全部ノ事務ノ挙カランコトヲ勉ムベシ

第十条　税務官吏ハ人民ノ財産ニ対シテ職務ヲ行ヒ、又ハ犯則行為ノ検挙ヲ為スモノナレハ、最モ清廉純潔ナラサルベカラズ、故ニ其素行ヲ修メ品操ヲ高クシ、勤倹ヲ守リ廉耻ヲ重ンジ、苟モ他人ノ指摘ヲ受クルガ如キコトナキヲ期スベシ

第十一条　税務官吏ハ人民ノ財産ニ関シテ調査ヲ為シ、又ハ物品ノ製造方法ヲ取調ブルコトアルヲ以テ、自ラ人ノ機密ヲ知得スルモノナリト雖モ、職務上ニ要スルノ外決シテ之ヲ他人ニ漏洩スベカラズ

第十二条　税務官吏ハ平常注意シテ課税物件ノ状況、課格製造方法等ヲ考察熟知スルコトヲ勉メ、税務執行上ノ参考ト為スヲ要ス

第十三条　税務官吏人民ニ接スルニハ相当ノ礼節ヲ守リ、挙止言語ハ最モ温厚端正ニシテ、自ラ他ノ敬重ヲ受クルノ実アルヲ要ス

第十四条　税務官吏ハ人民ニ於テ無礼・失言、其他粗暴ノ挙動ヲ為スニ遭遇スルモ、決シテ激シテ憤怒シ憶シテ逡巡スルガ如キ行為アルベカラス、益々静粛端厳穏ニ適宜ノ処置ヲ為スベシ

第十五条　税務官吏ハ執務ノ際、総テ威儀ヲ損シ体面ヲ傷フ外観若クハ挙動アルベカラズ、又課税物件ヲ検定スルニ方リテハ、已ムヲ得サル場合ノ外ハ之カ消費毀損等之レナキ様注意スベシ

右特ニ訓示ス

明治廿九年十一月廿五日

大阪税務管理局長　山形脩人印

（平21　大阪　227-3）

12　明治30年5月　税務監督規程

主秘第壱八弐号

税務監督規程別紙之通被定候ニ付、為御心得送付候也

明治三十年五月廿日

大蔵省主税局長　目賀田種太郎印

札幌税務管理局長　永田盛信殿

第一〇七四号

主　税　局

税務監督規程、左ノ通相定ム

明治三十年五月十五日

大蔵大臣伯爵　松方正義

税務監督規程

第一条　内国税賦課徴収事務ノ整理ヲ維持スル為メ、随時監督官ヲ派遣シ之ヲ視閲セシム

第二条　監督官ハ左ノ要領ニ就キ各税務管理局及税務署ノ税務ヲ視閲スルモノトス

一　内国税賦課ノ当否

二　職員ノ配置及処務計画ノ適否

三　検査ノ方法及検査事務ノ整否

四　犯則処分ノ当否

五　内国税徴収ノ整否

六　国税台帳諸帳簿及図書ノ整否

七　職員勤務ノ状況

八　内国税徴収費支弁ノ当否

九　所管税務署税務監督ノ挙否

十　印紙類ノ保管及取扱ノ実況

十一　所管物品ノ保管及取扱ノ適否

十二　局署処務ノ状況

第三条　監督官必要ト認ムルトキハ税務執行ノ現場ニ就キ視閲ヲ為スコトヲ得

第四条　視閲上ノ実況ハ之ヲ大蔵大臣ニ具申スルモノトス

（平1　札幌　86）

13　明治30年6月　執務上に関する臨時報告

庶発第三五四号

本局ト税務署間ニ於ケル気脈密接ノ必要ニ付テハ、平常口達シタル趣旨ニ基キ、従来執務上ニ関スル定時ノ報告ハ勿論、臨時異例ニ渉リ重要ナル事実及参照ノ資トナルヘキ事項ハ、其都度報告ヲナセリト雖トモ、尚左ニ列挙スル事項ノ如キハ細大漏サス迅速報告ヲナシ、以テ益気脈ヲ密接ニシ事務機関ヲシテ円滑ナラシメンコトヲ期スヘシ、此段及内示候也

明治三十年六月三日

東京税務管理局長　大塚　貢印

藤沢税務署長　河村貞邦殿

一　税務上ニ関スル人民集会ノ予報及実況、并其目的

一　演説会又ハ出版物等ニ於テ税務ニ関スル事項ヲ見聞シタルトキハ其趣旨及状況、但諸新聞、煙草・醸造雑誌等、普通世上ニ流布セルモノハ此限ニアラス

一　税務上ニ関シ地方人民ノ感情ニ異常アルトキ

一　税務執行上ニ付他官庁及市町村間ノ関係ニ異常アルトキ

一　天災地変其他非常ノ事ニ因リ米穀畑草等ノ作毛ニ損害アリタルトキハ、其直接ト間接ヲ問ハス被税物件又ハ営業者ニ及ホス損害ノ概況

一　税務上ニ関シ本省其他ノ官吏ニ対シ応答ヲナセシトキハ其要領

一　前各項ノ外異例ニ渉ルモノ

一　署員出張先ニ於テ前各項ノ事ニ接シ又ハ見聞シタルモノニシテ、極メテ緊急ヲ要シ署長ヨリ報告スル余暇ナキ場合ハ、臨機出張員ヨリ直接報告ヲナシタル後、署長ノ検閲ヲ経セシムルコト

（昭52　東京　1）

14　明治30年8月　改正条約実施に付意見照会

主秘第三一〇号

改正条約実施ニ際シ考査ヲ要スル事項嘗テ及御問合候次第モ有之処、尚左記之廉ニ付御意見承知致度候条、至急何分ノ御回報相成度、此段及御照会候也

明治三十年八月六日

大蔵省主税局長　目賀田種太郎印

札幌税務管理局長　永田盛信殿

一　改正条約実施後、外国人ニ対シ邦人同様課税スヘキニ付テハ、規定ノ不穏当又ハ執行ノ不便等ヨリ所得税法、営業税法、売薬規則、酒精営業法、狩猟法、間接国税反則者処分法、其他租税ニ関スル法律命令及其取扱方等ニ於テ改正変更ヲ要スルモノヽ有無、及其考按如何

一　税務官吏ヲシテ外国語ヲ練習セシムルノ要否、及其方法如何
一　税務官吏ノ服制等ニ関スル考按如何
一　酒造税法・営業税法等ニ於テ納税人ノ調製スル諸帳簿証書等ハ、外国人ニ於テ自由ニ外国文字ヲ使用スヘク、又租税ニ関スル諸申告応答等モ多クハ外国語ヲ用ユルモノ可有之ニ付テハ、之ニ対シテ如何ニセバ円満ニ税務ヲ執行スルヲ得ヘキヤ、之ニ関スル考案并ニ納税代人等ニ関スル考案如何
一　法規ニ依リ官衙ニ提出スル文書ノ様式、証印、花押、手署等ニ関スル考按如何
一　外国人ニ関係多キ税務管理局又ハ税務署ニ専務係員ヲ置ク要否如何

（平1　札幌　86）

15　明治30年10月　局長会議における大蔵大臣演達

秘乙第一五二号

本年四月中税務管理局長会議ノ席ニ於ケル大蔵大臣演達ハ、税務官吏ノ平常服膺スヘキ要項ナルヲ以テ、別紙謄本及交付ノ其順序トシテ述ヘラレタル第六項前段吏員ノ執務心得ヲ明確ニスルノ件ハ、本年二月四日付内訓税務官吏服務心得ノ各条ヲ遵守スルハ勿論、特ニ其第四条第十四条第十六条ニ該当ノ事ノ如キハ、平素多数人民ニ接スルニ方リ厳守スベキ要義ニ有之、開局当時ノ大臣ノ御趣旨モ主トシテ此辺ニ存スレハ、税務制度更革ニ際シ内部事務ノ刷新ヲ図ルト共ニ、外部ニ対スル体面、人民ニ対スル待遇ノ模様モ亦大ニ旧来ノ面目ヲ一新シ、著シク観ヲ異ニスルモノアランコトヲ期セザル可カラズ、知ルニ易ク行フニ難キハ世ノ通弊ナルヲ以テ、尓今一層注意セラルベク、又第六項後段

報告ヲ敏捷ナラシムル件ハ、既ニ内訓及ヒタル如ク、事ニ当テ機宜ヲ失セズ、全局ノ動作ヲ敏活ナラシムルヲ期スルニアルヲ以テ、職員一同其意ヲ体シ職責ヲ全フスルニ力メラルヘシ、此段内訓候也

明治三十年十月八日

広島税務管理局長　渡辺義郎印

可部税務署長　高野勇五郎殿

秘乙第一五二号別紙

大蔵大臣［松方正義］演達　三十年四月税務管理局長会議場ニ於テ

税務管理局ノ置カレシ以来、内外政務ノ多端ノ為メニ未タ諸君ニ接スルノ機会ヲ得サリシモ、置局ノ趣旨ノ在ル所ハ客年十一月一日ヲ以テ内訓シタル夫ノ税務監督ニ関スル綱領ニ徴シテモ、自ラ其一班ヲ推知スルニ難カラサルベシ、今親シク之ヲ朗読セン

税法ノ執行ハ汎ク一般人民ノ権利財産ニ関係ヲ及スコト尠ナカラサルヲ以テ、苟モ税務ニ従事スル官吏ノ其事務ヲ処弁スルニ当リテハ、一ニ公平忠実ヲ旨トシ、常ニ法令ノ規定スル所ニ遵ヒ、其正当ナル範囲ト歩武ヲ同一ニシテ、仮リニモ其域外ニ超逸シ又ハ其圏内ニ収縮スルコトアルベカラズ、今ヤ税務制度更革シ其面目ヲ一新セントスルニ際シ、当時吏員ノ各々謹厳其職ニ励ミ熱誠奮勉ヲ要スルハ勿論、之カ上司タル者ヲ監督指導モ亦切々偲々特ニ注意ヲ加ヘテ、税法ノ執行上ニ過不及ノ弊ナカラシムルヲ期セザルベカラズ、今ヨリ宜シク此意ヲ体シ、左ノ条項ニ則リ能ク監督ノ実ヲ挙ケ税務ノ整理ヲ全クスヘシ（以下略ス）

其所謂一新トハ大ニ内外ノ情勢ニ鑑ミ、将来ノ必要ニ応シテ官制ヲ改正セラレタルモノナルヲ以テ、之カ当事者タル

モノハ税法ノ改廃ニ伴ヒ社会ノ進運ニ副ヒ、屈伸消長ヲ自由ナラシメテ税務ノ面目ヲ根底ヨリ改良スルノ謂ヒニ外ナラサルサリ

往事ヲ顧ルニ、税務ニ関スル法規ハ概ネ厳粛ナラズシテ往々情弊ニ纏綿セラレ、之ニ従事スル吏員ノ如キモ金穀ノ吏ト称シ之ヲ卑ムルヲ常トセリ、維新ノ初メ百般制度ノ更革ト共ニ税務ノ如キモ漸ク其弊習ヲ刷新スルノ端ヲ啓キタリト雖トモ、尚ホ往々其余習ヲ襲フモノナキニアラス、之ヲ例セハ執行ノ規定ハ法律ヲ主トセスシテ官吏ノ手心ニ委シ、従事者ノ如キモ多クハ雇等ノ補員ニ一任シテ当該官吏ヲ用フルコト少ナク、其結果トシテ慣例漸ヲ成シ因襲時ヲ重ネ従事者モ亦浸潤久シキヲ経タル為メ、時ニ或ハ大体ニ達セズシテ大綱挙ラサルノ憾アルヲ免レサリキ、曩ニ府県ニ収税課ヲ特置セシ以来、本省ニ於テ之ヲ統轄シ頗ル其面目ヲ釐革シタルモノアリト雖モ、尚将来ノ情勢ニ考フレバ一新ノ効ニ挙クルノ転タ急ナルヲ知ル、其順序タル凡ソ如左ナラン

一　本省ト各税務管理局トノ気脈ヲ密接ニスルコト

一　本省ニ在リテハ施行規則等ノ改正ヲ計リ、事務ノ簡便ヲ期スルコト

一　管理局ニ在リテハ執行ノ順序ヲ簡易ニスルヲ計ルコト

一　処務ノ計画ニ注意シテ経費ノ効用ヲ厚フスルコト

一　苛細ニ過キス情弊ニ失セスシテ吏員ノ品格ヲ高クスルコト

一　吏員ノ執務心得ヲ明確ニシテ執務上ノ命令報告等ヲ敏捷ナラシメ、全部ノ成蹟ヲ全クスルコト

一　課税標準ノ調査ヲ的確ニシテ賦課ノ公平ヲ保維スルコト

一　将来大ニ内外国人ニ対スル法律適用ノ方法ヲ考フルコト

一　他ノ官庁及市町村等トノ交渉上、能ク其関係ヲ保チ孤立ニ陥ルノ弊ナカラシムルコト

以上示ス所ハ大体ノ綱要ニ過キサレトモ、之ニ付随スル細目張ルニ於テハ、蓋シ一新ノ効ヲ挙クルニ足ラン、抑モ税務各般ノ施設ハ固ヨリ各税法其他ノ法規ニ基キ、一般人智ノ発達ト商工業其他百般業務ノ増進トニ従ヒ、変通宜シキヲ制スルヲ上乗トス、今ヤ各種ノ税法改廃制定セラレタルニ当リ、其機関ノ体面ヲ革新シ事務ヲ伸張セサル可カラサルノ機運ニ際会セリ、因テ茲ニ諸君ヲ会同シ余蘊無ク其包蔵スルヲ尽サシメ、頼テ以テ此目的ヲ達センコトヲ希望ス

（平4　広島　2-1）

16　明治31年6月　税務通信内規

主秘第七五二号

税務執行上諸般ノ重要ナル事項通報方ノ儀ニ付、去ル明治廿九年十一月一日秘第九一一号達処務執行方心得、并ニ同日秘第九五〇号内訓中ニ於テ示サレタル綱領、及三十年四月税務諮問会ノ際大臣演達ノ趣旨ニ基キ同年五月廿五日主秘第一八八号照会、及同年八月五日主秘第三〇七号ヲ以テ及照会置候列記事項ハ、孰レモ夫々常時ニ於ケル監督及通報ノ場合ニ於テ御実行相成居候事ト存候ヘ共、尚ホ之ヲシテ益々発達セシメンカ為メ、諸般ノ事項ハ概ネ別紙税務通信内規ニ依リ取扱、各局間通信方神速処弁候様致度

右及内牒候也

明治三十一年六月廿二日

主税局長　目賀田種太郎印

仙台税務管理局長　那珂通文殿

税務通信内規

第一条　税務通信ハ定規ニ依レル事務ノ各報告及計算統計等ニ属スル報告ノ外、尚各局間ノ気脈ヲ通シ税務執行上ノ便利ヲ図リ、又ハ処理上参考ニ資スヘキ事項ヲ定時若シクハ臨時ニ報告スルモノトス

第二条　通信ハ分テ普通及特別ノ二類トス

普通通信ハ税務上常ニ注意ヲ要スル事項、及通例其情況ヲ知悉スルコトヲ要スル事項ニ就キ定時ニ報告スルモノトス

特別通信ハ臨時ニ発現セル事項ニ就キ特ニ報告スルモノトス

第三条　普通通信ニ属スル事項、概ネ左ノ如シ

一　土地売買価格ノ高低及農産収穫ノ実況

一　物価及金利ノ昂低并金融ノ景況

一　商業工業等盛衰ノ景況、殊ニ課税物件ニ及ボスベキ関係

一　運輸交通ニ関シ課税物件及被税者ニ及ボスヘキ影響

一　課税物件ノ消長及其原因

一　滞納者及犯則者ノ多寡及其原因

一　課税物件ニ関シ設置セラレタル団体又ハ組合等ノ概況

一　常ニ交渉スル他官衙及公衙ノ税務局署ニ対スル状態

特別通信ニ属スル事項、概ネ左ノ如シ

一　物価及金融其他商工業ニ於ケル急劇ナル変動及其兆候
一　税務上特殊ノ事項ヲ生シ人民ニ異常ノ感触アルトキ、其状況及処分方法等
一　税務ニ関シ人民ヨリ重要ナル請願、若シクハ陳情等ヲナサントシ又ハ為シタルトキ、其事実ノ要略
一　課税物件ニ関シ新ニ団体又ハ組合等ノ設置セラレタルトキ、其旨趣及状況并ニ利害
一　法規ノ制定改廃又ハ課税処分等ニ関スル集会演説、又其他新聞雑誌ノ評論等、其旨趣要領
一　課税ニ関シ新ニ起レル障碍、其他諸般弊風発生及特殊ナル反則者
一　課税物件ニ影響スベキ天災時変ノ概況

第四条　普通通信ハ毎一ケ月ニ（但シ其異動ナキ事項ハ此限ニアラス）、特別通信ハ其事件発生ノ随時ニ之ヲ報告スヘシ、尚前条掲載各事項ノ外税務ニ関シ利害ノ関係アルモノ、及参考ニ資スヘキモノハ総テ此通信内規ノ趣旨ニ遵ヒ随時報告スルヲ要ス

報告ハ可成簡明ニ其事実ヲ悉スヲ要ス

第五条　主税局ハ警告又ハ予告ノ必要ニ随ヒ、又ハ管理局ノ通信ニ依リ各管理局ノ全部若シクハ一部ニ向ヒ報告ヲ発シ、又単ニ参考ニ資スルコトヲ計ルベシ

第六条　各管理局間利害関連スル事項ニ就キテハ、相互ニ通信報告セラルヽコトヲ要ス

第七条　通信ハ凡テ簡易ナル書式ニ依リ普通文書ト区別シ易カラシメ、且秘報又ハ急報ニ属スルモノハ必朱ニテ「秘」又ハ「急」ト標記スルヲ要ス、其特ニ至急ヲ要スルモノハ電報スヘシ

（昭44　仙台　43）

17　明治31年8月　東京局の税務研究会準則

庶発第六〇二号

服務行動ノ好果ヲ収ムルハ、法令ノ活用ト相待テ運動セザルベカラサルハ彰乎タル事実ナリ、其法文ノ解釈上或ハ意見ヲ異ニシ応用ノ結果終ニ瑕瑾ヲ生スルガ如キハ甚タ遺憾トスル処ナリ、故ニ租税法規其他関連ノ諸法令ハ常ニ研究シ、苟モ慣例ニ拘泥セズ益々進ンテ改善ノ策ヲ講究シ、以テ実用ニ供スルハ目下ノ急務ナリ、況ンヤ内地雑居ノ暁ニ迫ルニ於テヲヤ、故ニ各税務署ニ於テ此際税務研究会ヲ組織シ、法文ノ解釈并ニ事実ノ問題其他必要事項ヲ討究シ、斯務刷新之具タラシムルハ最モ有益ナル活動機タルヲ認ム、既ニ実行ノ税務署アリト雖トモ本官ハ一般此挙アランコトヲ希望ス、仍テ為参考別紙準則配布ニ及ヒ候条、組織ノ上ハ其旨報告セラルベシ

明治三十一年八月十二日

東京税務管理局長　仁尾惟茂印

藤沢税務署長　井口季太郎殿

準　則

第一条　本会ハ税務研究会ト称ス

第二条　本会ハ税務官吏服務心得ノ主旨ニ則リ、税務ノ運捗并ニ改善ノ方法ヲ講究スルヲ以テ目的トス

第三条　本会ハ前条ノ目的ヲ達スル為メ、左ノ事項ニ基キ研究スルモノトス

一　官吏服務心得ノ講読

二　租税法規ノ逐条講究
三　租税法規ニ関連スル他ノ諸法令并ニ条約ノ研究
四　税務ニ関スル法令ノ適用及其手続ニ関スル事実問題ノ研究
五　必要事項ノ研究

第四条　本会ハ税務署員ヲ以テ組織シ、署長ヲ以テ会長トス
第五条　本会ノ会場ハ税務署トス
第六条　本会ノ会日ハ定期会及臨時会トス
定期会ハ毎月第何土曜日ノ午後、若クハ第何ノ日曜日ノ午前之ヲ開ク
臨時会ハ緊急ヲ要スル事実問題ニ付テ、会長ノ許諾ヲ得テ之ヲ開ク
第七条　議決ノ要領ハ議決録ニ記載シ以テ執務ノ参照トナシ、又タ監督員出張ノ際閲覧ニ供スルモノトス
第八条　重大ナル事項ニシテ数説ニ分レタル時ハ、其各説ヲ記載シ管理局長ノ指揮ヲ受クルコトアルヘシ
第七条　会員中事故アリテ欠席スルトキハ書面ヲ以テ其旨届出ツルモノトス

（昭52　東京　1）

18　明治31年11月　官制改革発布に付局長演述要旨

熊秘第二〇七号

今回熊本、福岡、大分、小倉、久留米ノ各税務署長召集相成、別紙ノ通局長御演述相成候ニ付、参考ノ為メ及御回付

候也

明治三十一年十一月十五日

司税官　岩政憲三

福島税務署長　香田貞一郎殿

追テ、事ノ未発ニ係ルモノハ固ク秘密トシテ御守相成度、特ニ貴官マテ御洩ニ及ヒタル義ト承知セラレ度、為念申添候也

［熊本税務管理］局長［辰野宗義］演述ノ要旨

今回各位ヲ召集シテ来局ヲ求メタルハ、曩キニ小官大蔵大臣ノ召集ニ応シテ上京シタル際訓示ヲ蒙ムリシ事柄、並ニ上京中ニ起リタル官制改革発布ノ結果トシテ執行シタル事件ノ大要ヲ摘ミテ、親シク之ヲ各位ニ披陳セント欲スルニアルナリ、尤モ些末ノ事故ニ至リテハ近日司税官ノ巡回アリ、小官亦出張ノ時アルヲ以テ追テ各税務署員ニ向ヒ詳細陳述ノ期アルヘケレハ、今ハ唯重要ノ位置ヲ占メテ他税務署ノ模範タルヘキ各位ニ向ヒ、其ノ梗概ヲ陳述スルヲ以テ足レリト信ス

扨今回上京ニ際シ大臣閣下ヨリ親ク示サレタル事柄アレトモ、今日已ニ内閣交迭ノ後ニアリテハ一々茲ニ之ヲ述フルノ必要アラサルヘシ、但彼ノ八月十五日ノ訓示ニ就キテハ、已往ニ在リテモ将来ニ在リテモ苟モ職ヲ税務ニ奉スルモノヽ深ク服膺セサルヘカラサルコトハ、啻ニ大臣閣下ノミナラス添田次官モ亦閉会ノ際懇篤示諭サレシ所ニシテ、小官亦嘗テ巡回ノ際各税務署ニ於テ懇示セシトコロナリ、是レ蓋シ其ノ旨趣ニ於テハ税務ナルモノヽ始マリシ以来絶ヘス存在セシトコロニシテ、今日ニ及ヒ始テ其必要ヲ見シニアラスト雖、日進月捗ノ世ノ中、殊ニ条約改正ヲ日前ニ控

ヘタル今日ニ於テ、之ヲ温メ当局官吏ヲシテ一層深ク注意シテ服膺セシムルノ必要ナクンハアラス、又彼ノ繁文省略ナルモノハ官民挙テ唱道セル処ナレハ、将来出来得ル限リ繁冗ノ弊ヲ去リテ簡易敏活ヲ主トスヘキモ、元来租税ノ性質タル厘毛糸忽ノ微ヲ争フモノナルカ故ニ、極テ事ヲ緻密ニスルノ要アリ、故ニ一面ニハ無用ノ手数ヲ除クト同時ニ、一面ニハ緻密ヲ貴ヒテ遺漏ナキヲ期セサルヘカラス、又寛厳宜キヲ得ルト云フカ如キモ、之ヲ口ニスルハ易キモ之ヲ実行スルハ甚タ難キ事ナレハ、宜ク正業者ト不正業者トヲ判別シ、正業者ヲ保護シテ不正業者ヲ取締リ、緩ニ流レス厳ニ失セス、所謂寛厳其宜ヲ得ンコトヲ期セラレタシ、又事局ニ応スルノ智識ヲ養成スルハ尤モ必要ナリ、是等ノ点ニ就キテハ別ニ談話スルトコロアルヘク、今ハ唯タ各位ノ特ニ意ヲ是等ノ点ニ用ヒラレンコトヲ希望シ置クノミ

官制改革ニ関シテハ已ニ数月以前ヨリ朝野ノ問題トナリ、且ツ政務調査委員ノ設立アリテ之カ調査ニ従事セルハ小官ノ迅ニ耳ニセルトコロナリシモ、税務ニ向ヒテハ格別ノ変動ナカルヘキヲ軽信シテ別ニ考慮ヲ費サヽリシニ、何ヲ計ラン、一旦改正官制ノ発布ニ際シ多数ノ減員ヲ見ルニ至リ、僅々数日ノ間ニ於テ殆ト六十人ノ淘汰ヲ行ハサルヘカラサルニ至ラントハ、殊ニ小官着任日尚浅キニ上京シ事情ヲ洞知スルニ由ナク、加フルニ司税官モ亦赴任日尚浅ク、税務署ヲ巡回スル甚タ多カラス、何ヲ以テ多数税務属ノ勤怠能否ヲ識別シ之カ淘汰ヲ行フヲ得ヘキ乎、左レハ迚改革ノ実施ハ目前ニ迫リ居テ十分ノ調査ヲ行フノ暇ナシ、是ヲ以テ縦ヒ減員スルモ事務ニ差支ヘサル底ヲ以テ目的トシ、司税官ニ調査ノコトヲ電報セシモ、当時後藤司税官補已ニ去リ、寺井司税官補亦転勤ヲ命セラレシ際ナリシヲ以テ、思フニ岩政司税官ノ苦心困難モ亦一方ナラサリシナルヘシ、翻テ一考スルニ当時政府財政上ノ方針トシテ増税ノ已ムヘカラサルアリ、遠カラス酒税、混成酒税等ノ改正アルヘキハ必然ナレハ、其ノ結果トシテ今日平均二人ヲ減セシモノ明日三人ヲ増加スルニ至ルハ事理ノ睹易キモノニシテ、十二月ニハ酒造税ノ増加シテ再ヒ増員ヲ見ルベク、且ツ雇員給ノ増額セルアリテ、全ク其間ノ過渡ニ於ケル結ヒ目タルヘキ便利ヲ得タルヲ以テ、一時本官ヲ非職トシテ雇員タラ

シメ、定員増加ノ暁ニ至リ復職ヲ命スルノ便法ヲ執ルハ、稍ヤ時宜ヲ得タルモノナリト信シ、第一ニ下級ノ者ヲ淘汰シテ他日復職ノ地ヲ作リ、老朽若クハ不能ノ聞ヘアルモ半信半疑ノ間ニ於ケルモノノ淘汰ヲ第二ニ置キタリ、是レタトヒ老朽不能ナルモ多少間税事務ニ経験アリ、下級者ハ少壮有為ノ点ニ於テ優ルアルモ、経験日浅ク目下ノ用ニ於テハ却テ老朽者劣ルナキ能ハス、且縦ヒ一時非職ノ厄運ニ遭遇スルモ、一二ケ月後ニ於テ再ヒ就職シテ永ク斯職ニ従事スルノ余地アルカ為メ、彼ヲ取リ此ヲ捨ツルノ処置ニ出シニ外ナラス、大体ノ方針ハ斯ノ如クナリシト雖、若シ仮スニ時日ヲ以テシ十分ノ調査ヲ為サシメハ、今一層完全ナル改革ノ実ヲ挙クルヲ得タルヤ疑ナシト雖モ、奈何セン、此間ノ日数僅々五六日、而テ地ヲ距ル三百余里、電文悉クス能ハサルアリ、書信ノ往復ニ数日ヲ費スアリ、其間或ハ行違ヲ生シ多少ノ蹉跌ナキ能ハサリシモ、岩政司税官ノ調査ト小官ノ調査トカ概ネ趣ヲ一ニシテ、其間ニ径庭ナカリシハ小官ノ甚タ満足セシトコロナリ、但シ此際断シテ増給スル能ハサルカ為ニ、真ニ淘汰ノ必要アリト認メタルモ、故ニ之ヲ猶予セシモノモアリ、因循ト謂ハヽ因循、姑息ト謂ハヽ姑息ナレトモ、人ヲ待ツニ於テ又万已ムヲ得サルニ出タルナリ、然ラハ今後ハ当分一人ノ変動モナカルヘキヤト云ハヽ、現在員中一人ノ淘汰ヲモ行ハストハ断言シ難キカ故ニ、早晩前陳ノ人々ニ向ヒテ処分ヲ為スノ時期アルヘシト答ヘンノミ、又一方ニ向ヒ此ノ淘汰ヲ行フト共ニ、何故一方ニ向ヒテ昇給増俸ノ処置ヲ行ハサリシヤト云フニ、大蔵省ノ見解ニヨレハ官制改正ノ結果トシテ十級以上ハ皆一級ツヽ下タルカ如キ者アルモ、是レ当然ノコトニシテ増俸ハ即チ昇給ト同一ナレハ、昇給上申ノ期ヲ待テ之ヲ行ハサルヘカラスト云フニ在リ、又昇給増俸ハ経費上悉皆ノ税務属ニ向ヒ尽ク之ヲ行フ能ハサルハ勿論ナレハ、必ラス奨励ノ趣旨ヲ以テ汎ク抜擢ヲナサヽルヘカラス、而テ抜擢ノコトタル、若シ誤テ其人ヲ得サレハ奨励ナルモノ奨励タラサルノミナラス、却テ弊害ヲ生スヘキ恐レアルカ故ニ、充分ノ調査ヲ遂ケタル後ナラサレハ軽々之ヲ行フヘカラス、故ニ旁々以テ当時ニ於テ早計ナル詮議ヲナサスシテ、来ル十二月ヲ待タント欲セシ所以ナリ、各位幸ニ諒察セラレムコ

トヲ乞フ、序ニ任用ノ方針ニ就テ陳述センニ、凡ソ多数ノ人ヲ任用スルニ当リ悉ク完全ノ人ノミヲ得ル能ハサルハ、已往現在ノ実例ニ徴シテ明ナルモ、詮衡ヲ以テ特別ノ補充ヲ為スハ止ムヲ得サル究策ニシテ、時運ノ進歩ハ単ニ事務上ノ経歴ノミヲ以テ足レリトセス、一般ノ智識才能ノ必要ヲ感スルニ至リシカ故ニ、成ル可ク中学卒業生若クハ試験及第者ヲ採用スルノ方針ヲ執ラサルヘカラス、左レハ詮衡ニ依レル特別任用ハ絶対ニ否拒スル能ハサルモ、俸ヲ厚フシテ以テ人ヲ待タハ、資格ヲ有スル者ノ自ラ進ンテ来ルヤ疑ナカルヘシ、来ル三十二年本局ニ於テ試験ヲ執行セントスルモ全ク此ノ旨趣ニ外ナラサレハ、各位成ルヘク受験者ヲ慫慂セラレンコトヲ望ム、尤モ今日ニ於ケル税務属一人当一ケ月ノ俸給平均額ハ十六円九十銭ニシテ、之ヲ従来ノ平均額十五円五十銭余ニ比スルニ、僅ニ一円三十銭余ノ増額ニ過キサルカ故ニ、前述ノ如ク此際一般ノ昇給増俸ヲ為ス能ハサルハ勿論、俸ヲ厚フスルノ困難ナルハ固ヨリナリト雖、税務ノ組織ヲ改正シ上級者ト下級者トノ職務上ノ区分ヲ明ニシ、間税検査ニ於テモ土地検査ニ於テモ主脳タル主任ト助手タル技術者トノ区別ヲ設ケ、一ハ丈量ヲ為シ、一ハ帳簿ヲ控ヘ、一ハ検査ヲ行ヒ、一ハ監督スト云フカ如キ組織トセハ、才能技倆アルモノニ向ヒ自ラ待遇ヲ厚クスルヲ得ヘシト信ス、現ニ府県庁ノ官吏ノ平均俸給月額ハ殆ント二十円ナルニ、尚不足ヲ感シ増額ヲ請求スルノ有様ナルニ反シ、同ク地方ノ官吏タル税務属ハ今回ノ増額ニ於テ十六円九十銭トナリシニ□□サルハ、一ハ実際ノ必要ニ応シ、一ハ組織ノ不完全ナルニ基クニ外ナラサルヘシ、故ニ税務官吏ニ其人ヲ得テ自カラ位地ヲ高メンコトハ目下必要ノコトナリト謂ハサルヘカラス、僅ニ小学卒業ノ輩ノミヲ詮衡シテ任用スルカ如キハ決シテ策ノ得タルモノニアラサルナリ、故ニ小官ハ漸次此ノ方針ヲ取リテ数年ノ後ニハ必ラス目的ヲ達センコトヲ期ス、若シ小官在任中目的ヲ達スル能ハサレハ後任者ニ向ヒテ希望ヲ陳ヘ、遂ニ之ヲ成就セサレハ已マサルヘシ、又前陳ノ抜擢ニ関シテハ第一ニ抜群ノ者、第二ニ勤勉ニシテ技倆ヲ有スルモノヽ両様ニ別チ、来ル十二月中若シ両者共ニ昇給セシムル能ハスンハ、悉テハ第一ノ者ノミニテモ必ラス詮議スルトコロアルヘシ、然

レトモ是亦各位調査ノ力ヲ借ルニアラサレハ、目下小官ノ独断スル能ハサル事情アルニ由リ、各位幸ニ公平ニ調査シ細密ニ考量シテ報告セラレムコトヲ希望ス

間税検査ニ関シテ特ニ注意スヘキコトアリ、近来税務属ニ頻繁ノ交迭アリシカ、為ニ検査未熟ノモノモ亦尠カラス、是レ小官カ曩キニ数ケ所ノ税務署ヲ巡回セシ際ニモ往々認メシ事実ナリトス、是等ハ十分養成シテ訓練ヲ加ヘサルヘカラス、殊ニ酒税、混成酒税改正ノ風説アル今日ニ在リテハ、尤モ其必要ヲ感セサルヲ得ス、而テ監督ヲ周到ニシ取締ヲ厳ニスルハ之カ方法ノ一ナリト信スルニヨリ、本年ハ従来ノ監督方法ヲ更メ、区ヲ分チ担任ヲ定メテ各其区内ヲ巡回セシムルコトヽセリ、蓋シ世事皆ナ競争ノ必要アリ、監督ニ於テモ亦然リトスルヲ以テ、競争ノ中必美果ヲ結ハンコトヲ期スルニアリ、故ニ非違ヲ訐クカ如キハ之ヲ第二ニ擱キ、指導誘掖スルヲ以テ第一トシ、専ラ此方針ニ拠リテ監督セシメント欲ス、但シ教ヘテ尚改メサルモノアラハ、署長ニ協議シ若クハ本局ニ報告スルモ可ナラント雖、大体ニ於テハ示導的監督ヲ為スヲ以テ大趣旨トナスノ優レルヲ信ス、又本局ノ監督ト署長ノ監督トハ其間ニ差異アリテ、夫ノ課税物件ノ消長、法律命令実施ノ状況、管内ノ画一ヲ謀ル等ハ主トシテ本局ノ監督スルトコロニシテ、部下ノ税務属ニ対シ其ノ命令ノ行ハルヽヤ否ヤ、及ヒ勤怠能否ノ如何ヲ視ル等ハ署長ノ職権ヨリ生スル監督ナレハ、彼是決シテ混同スヘカラス、若シ本局監督ノ充分ナル為メ署長監督ノ不用ナルヲ説クモノアラハ大ナル誤ナリ、要スルニ小官ハ管内ノ間税検査ヲ画一ニシテ其実ノ挙ランコトヲ図リ、後進者ヲ誘導シテ事務ニ習熟セシメ、随テ各署ノ事務モ亦同一轍ニ帰センコトヲ望ムニアレハ、監督員ト署長署員ノ間ニ於テ互ニ畛域ヲ設ケ、或ハ其ノ非ヲ探リ、或ハ其欠点ヲ求ムルカ如キ弊ナカランコトヲ希望ス、目下巡回中ナル三人ノ監督補助員モ遠カラス帰局セシメ、一般ノ事情ヲ具陳セシムヘキニヨリ、此際各位モ亦監督ノ結果、成蹟并ニ将来ノ方針等ニツキ意見アラハ詳細陳述セラレタシ

税務通信ニ関シテハ主税局ヨリ通牒ノ次第モアリテ、曩キニ本局ヨリ各署ヘ訓示シタルトコロナルカ、普通々信ハ変

動アル場合ノ外ハ必モ必要ナキモ、特別通信ハ主税局ニ於テモ本局ニ於テモ最モ必要トスルトコロナレバ、成ル可ク頻繁ニ報告セラレムコトヲ望ム、其事柄ノ区別ニ至テハ容易ニ判断シ難キモ、些末ノコトニシテ其及フトコロ甚タ大ナルモノアルカ故ニ、新聞紙ニ記載セルモノヽ外ハ小事ト雖モ報告ノ必要アリト知ラルヘシ、又税務ニ直接ノ関係ナキモ間接ニ影響ヲ及ホスモノ少カラサルハ常ニ最モ留意セラレムコトヲ要ス、例ヘハ秋社ノ祭日ニ参詣人ノ陸続トシテ向背相望ムノ有様アルハ、年ノ豊ニシテ家々富ムノ事実ヲ知ルヲ得ヘク、之ニ反シテ寂寞トシテ途上ニ雀羅ヲ設クヘキノ景況アラハ、天災事変若クハ悪疫ノ流行セルヲト知スルヲ得ヘキカ如シ、故ニ是等ノ些事ト雖モ注目ヲ怠ラサランコトヲ望ム、尤モ県庁ニ在テハ其下ニ郡長、町村長、区長等ノ機関アリ、農事組合、勧業委員、郡視学等ノ設備アリ、加フルニ警察ノ眼光炬ノ如ク能ク緻密ナル取調ヲナスカ故ニ、百般ノ状況遺漏ナカルヘキモ、本局及ヒ税務署ニハ一モ是等ノ機関アラサルカ故ニ、取調ノ困難ナルハ勿論ナルモ、間税検査員カ日々巡回ノ際耳目ニ触レシモノ、及署員ノ認知スル所等ヲ以テ之カ材料トセハ甚キ誤謬ナカルヘシ、而テ之カ責任ノ有無ニ至テハ事ノ大小軽重ニ随ヒ一概ニ論スヘカラサルモ、大体ニ於テ責任ナキモノナレハ信偽ヲ確ムルヲ要セス、唯耳目ニ触ルヽニ随ヒ事細大トナク迅速ニ報告セラレムコトヲ肝要トス、若シ後日ニ至リ誤謬ノ虞ヲ発見セハ、更ニ報告ヲ更ムルモ亦未タ遅シトセサルナリ

前陳シタル大臣ノ訓令中智識ヲ養成シ時局ニ応スルノ件ハ、条約実施ノ準備トシテ最モ必要ナレハ、本局ニ在テハ之ニ応スルノ謀ヲ為シ、成ル可ク管内枢要ノ税務署ニ向ヒ外国語ヲ解スル者ヲ配置センコトヲ期セリ、而テ一般局署員ニアリテモ外国語ノ智識ハ向後愈必要ナレハ、成ル可ク之カ研究ヲ為サシメンコトヲ望ム、又世運ノ進歩ハ今、昨ト異リ、今、明ト同シカラサルカ故ニ、法律思想モ亦大ニ養成セサルヘカラサルニヨリ、本官主唱トナリ本局員及熊本税務署員ニ協議シ、法律及ヒ英語ノ研究会ヲ設ケント欲シ、岩政司税官ヲ煩ハシテ専ラ之カ担任ヲ乞ヒ、且ツ助手ヲ

入レテ教授ノコトニ与ラシメントセリ、尤モ老年ノ人ニアリテハ研究上多少ノ迷惑ヲ感スヘキニヨリ、必スシモ出席スルヲ要セス、唯之ガ維持費ヲ義捐スルコトニ止メ、専ラ少壮年者ヲ養成スルヲ以テ目的トセリ、幸ニ此ノ目的ヲ達セハ極メテ簡易速成ヲ旨トシ半年若クハ一年ノ後ニ於テ多少実際ノ用ニ応セシメンコトヲ期セリ、是等ハ単ニ一税務署ノ力ヲ以テ組織シ得ヘキモノニアラサレトモ、各位ノ在勤地ハ管内枢要ノ地ナルヲ以テ宣教師若クハ学校教師等ニ就キ余暇ヲ以テ出来得ル限リノ研究ヲナシ、且ツ署中若素養アルノ人アラハ温習セシメ、温習ノ必要ナキ人ニハ教授ニ当ラシムルノ方針ヲ取ラハ、将来益スルトコロ決シテ少小ナラサルヘシ

以上、大体ノ方針及ヒ希望ヲ概括シテ陳述セシニ過キサレハ、各位幸ニ諒察セラレムコトヲ望ム、又諸般ノ事務ニ至テハ小官司税官ト共ニ本局ニ在ル日尚浅キニ依リ、各位ノ忠言ヲ求ムル頗ル切ナラサルヲ得ス、各位ハ各処ニ散在セルモ本局管下ニ在ル年已ニ久ク、善ク各地ノ情況ニ通暁セラルヽヲ以テ、一面ニハ本分ノ事務ヲ進捗セラルヽト同時ニ、一面ニハ本局ノ為メニ一臂ノ力ヲ添ヘテ意見ヲ開陳セラルヽヲ惜ム莫レ、但ダ其ノ採否如何ハ自ラ職権ノ存スルアリ、悉ク之ヲ納ルヘシト断言スル能ハサルモ、亦必モ忠言ヲ聴クニ吝ナラサルヘシ、斯クシテ以テ局トナク署トナク我カ管理局ノ下ニ於ケル事務ノ善ク挙リ善ク進捗シテ、大臣訓示ノ旨ニ適ヒ税務上又毫モ遺憾ナカラシムコトヲ希望シテ已マサルナリ

（昭59　福岡　92）

19　明治31年12月　税務通信内規の改正

秘受第一六九号

税務通信処弁方本年八月二十三日秘受第七九号ヲ以テ内訓ノ処、右別紙税務通信内規今般更ニ別紙ノ通リ改正セラレタルニ付、自今其内規ニ準拠スヘシ

右内訓ス

明治三十一年十二月十二日

宇都宮税務管理局長　中島　準印

足利税務署長　大谷清海殿

税務通信内規

第一条　税務ニ関スル重要ノ事項及税務執行上参考トナルヘキ事項ハ随時報告スルヲ要ス、其事項概ネ左ノ如シ

一　物価及金融其他商工業ニ於ケル急激ナル変動及其兆候

一　税務上特殊ノ事項ヲ生シ人民ニ異常ノ感触アルトキ、其状況及処分方法等

一　税務ニ関シ人民ヨリ重要ナル請願若クハ陳情等ヲナサントシ又ハ為シタルトキハ其事実ノ要略

一　課税物件ニ関シ新ニ団体又ハ組合等ノ設置セラレタルトキ、其旨趣及状況并利害

一　法規ノ制定改廃又ハ課税処分等ニ関スル集会演説、又ハ其他新聞雑誌ノ評論等、其旨趣ノ要領

一　課税ニ関シ新ニ起レル障碍其他諸般弊風ノ発生及能殊ナル犯則者

一　鉄道布設道路開鑿等ニ依リ課税物件ニ及ボスヘキ影響

一　課税物件ニ影響スヘキ天災時変ノ概況

第二条　主税局ハ警告又ハ予告ノ必要ニ随ヒ、又ハ管理局ノ通信ニ依リ各局ノ全部若クハ一部ニ向ヒ報告ヲ発シ、又

ハ単ニ参考ニ資スルコトアルヘシ

第三条　各管理局間ノ利害関連スル事項ハ相互通信スルコトヲ要ス

（平16　関信　53）

20　明治31年12月　署長会議における局長演達

税務署長諮問会開会ノ当日、菅原［通敬・丸亀税務管理］局長左ノ通演達サレタリ

十二月廿日税務署長会議席上局長　演達要旨筆記

諸君本官乏ヲ当局長ニ承ケ将来諸君ト共ニ所管税務ノ企画経営ヲ為サントスルニ当リ、今日一堂ニ相見ルノ好機ヲ得タルハ本官ノ大ニ満足スル所ニシテ、諸君カ歳臘事務ノ多忙ヲ控ヒ特ニ天寒ク風冷カナルノ時季ニ際シ、遠ク茲ニ会同セラレタルノ労ハ本官ノ深ク謝スル所ナリ、本官今ヤ重任ヲ負フト雖若輩未タ世故ニ通セス又事務ニ習ハス、能ク其任ヲ全フスルハ偏ニ諸君ノ熱誠忠実ナル幇助ニ俟タサル可ラス、乃チ其幇助ハ本官カ予メ諸君ニ望ム所ニシテ、諸君ハ又能ク此意ヲ了シ将来永ク補翼ノ労ヲ吝マルヽナキハ、本官ノ信シテ疑ハサル所ナリ

偖テ此際ニ於テ諸君ノ会同ヲ促シタルノ理由一ニシテ足ラスト雖、要スルニ

第一　局長ノ交代ニ因リ本官ハ新任者トシテ劈頭第一ニ諸君ト面識ノ知ヲ得、兼テ親シク事務上ノ面議協商ヲ為シ、能ク事情ノ疎通ヲ図リ税務執行上ノ方針ヲ決スルノ要ヲ認メタルモノナリ

第二　去ル十月末ニ発表セラレタル官制改正ノ趣旨ニヨリ、行政ノ改革モ追次実行セラレントスルノ時ニ当リ、各其見ル所ヲ主トシテ其為サント欲スル所ヲ行ヘハ、時ニ釐毫ノ差モ千里ヲ過ツナキヲ保セス、乃チ諸君ノ意見ヲ求メ、

又本官ノ所思ヲ述テ執務ノ画一ヲ図ルノ要ヲ認メタルモノナリ

第三　今ヤ財政ノ問題頻リニ起リ新税ノ創設、旧税ノ増徴等我カ税務ノ前途亦極テ多端ナリト謂ハサル可ラス、而シテ此問題ノ事実トナリテ余ト諸君ノ職務ニ一層重荷ヲ添フニ至ルモ、亦最早争フヘカラサルモノヽ如シ、然則チ余輩税務官吏タルモノ豈之ニ応スルノ準備ナクシテ可ナランヤ、事ニ臨ミテ狐疑狼狽スルハ由来智者ノ為サヽル所ナリ、余輩敢テ智者ヲ以テ任スルニアラスト雖、今ニシテ地方ノ情況ヲ聞キ又其考按ヲ叩ク、豈夫レ徒労ナランヤ、否寧ロ其切要ヲ認メタルモノナリ

会同ノ要旨以上三個ノ理由ニ基ク、而シテ会議ノ性質ハ一ハ本官ノ諮問ニ対シ諸君ノ答案ヲ求ムルニ在リ、一ハ本官ト諸君ト共ニ事務上ノ協議ヲ為スニ在リ、願クハ諸君能ク此趣旨ヲ了得セラレテ、互ニ胸襟ヲ披キ此希望ヲ充サルヽト共ニ、尚此会同ヲ利シテ互ニ感情ノ融和ヲ謀リ共ニ税務ノ識見ヲ開拓シ、局ニ当ツテハ法令ノ執行ヲ全フシ事務ノ画一ヲ期スルアラハ、是レ諸君ハ今回会同ノ本旨ヲ全々解釈セラレタルモノト謂ハサル可ラス、願ハ諸君此意ヲ体シ互ニ其利スル所ヲ利シ、今回会同ノ利益ヲシテ永ク価値アルモノタラシメラレンコトヲ、尚終ニ望ミ一言スヘキハ新任本官ノ眼中今ヤ一物ナシ、之ヲ譬フレハ恰モ無色ノ玻璃鏡ノ如シ、若シ将来ノ施設ニ紅白ノ別ヲ生スルアラハ、是レ諸君ノ行動ヨリ反射スル結果ニ外ナラス、味テ以テ慎重熟誠ニ補翼セラレンコトヲ望ム、聊カ以テ開会ノ趣旨トス

以下、更ニ税務一般ニ関シ聊カ所見ヲ述ントスルニ当リ、本官着任以来未タ充分意見ヲ吐露スルノ好機ヲ得サリシヲ以テ、此序ニ於テ独リ税務署長諸君ニ向テ陳述スルニ止ラス、尚之ヲ本局課長諸君ニモ伝ヘント欲スルモノナリ、而シテ其述ル所素ヨリ本官ノ意見ナルモ、之ヲ取テ直ニ施政ノ方針トスルノ謂ニアラス、諸君ノ意見ヲ聞キ親シク協議ヲ要スルノ点モ亦素ヨリ少カラズ、今併テ之ヲ述フ、諸君請フ諒セラレヨ

一

本会ハ主トシテ税務署長諸君ノ会同ナルカ故ニ、先ツ本官カ諸君ノ位置ニ対シ平素抱懐スル観念ヲ伝テ、諸君ノ地位職責ノ上ニ一顧ヲ乞ヒ、追次他ノ所見ニ及フハ至当ノ順序タルヲ信ス、一昨年本官カ始メテ身ヲ税務界ニ投スルヤ、税務署ト管理局トノ関係ニ就テ疑ヲ有シタリ、即チ税務署ハ管理局ノ出張所タルカ如キ感想ヲ有スルニアラサルヤヲ怪ミタリ、爾来職ヲ各地ニ奉シ又監督トシテ各局ニ使シ、各地ノ実況ヲ観察スルニ及テ、此感想カ一般ニ行ハルヽモノヽ如クナルヲ確ムルヲ得タリ、即チ本局ハ猥リニ税務署ノ事務ニ干渉シ、税務署亦確乎一定ノ識見ナク事ノ細大軽重ヲ問ハス、総テ本局ノ指揮ヲ仰クノ状況ニシテ、従テ職責ノ帰スル所明カナラス、功アレハ之ヲ己ニ帰シ、過アレハ之ヲ他ニ嫁セントスルノ弊アルヲ認メタリ、本官就職日尚浅ク当局局署ノ関係等ニ就キ未タ悉サヽルアルカ故ニ、此弊アルヤ否ヲ言フ能ハスト雖モ、常ニ諸君ト共ニ戒心スヘキ一事項タルヲ失ハス、蓋シ官制ヲ以テスレハ局長ハ法律命令ヲ執行ストアルモ、直接人民ニ向テ法律命令ヲ執行スルハ税務署長ニシテ、或ハ局長ノ名ニ於テ或ハ署長自身ノ名ヲ以テ直接ニ法律命令ヲ執行スルモノナリ、即チ税務署長ハ相当委任ノ範囲内ニ於テ自ラ其職務ヲ執行スル者ナリ、然ルニ管理局長ニ代リテ管理局ノ出張官吏トシテ職務ヲ行フモノト信スルモノアルカ如キハ極メテ謬見ナリトス、事実ノ上ニ於テ之ヲ見ルモ管理局ハ唯タ僅ニ税務署ヲ監督シ事務ノ統一ヲ期スルニ過キス、極言スレハ局長ハ諸君ト本省トノ間ニ在テ一ノ取次役ヲ力ムルニ過キス、斯ノ如ク解シ来レハ税務署長ノ任ヤ重ク責ヤ大ナリト謂ハサルヘカラス、本官ハ成ルヘク此解釈ニ依リ其方針ヲ定メント欲スルモノナリ、夫レ上司ノ下司ニ対スルハ其職権内ニ於テ果シテ能ク政務ヲ修挙シ得ルヤ否ヤヲ監督スルニ存ス、叨リニ其事務ニ干渉シテ作用緊縛シ要務ヲ稽滞セシムヘカラス、宜シク委任ノ実ヲ挙テ以テ大ニ行政事務ノ敏活刷新ヲ図リ、吏治ヲシテ一段ノ起色アラシムヘシトハ、過般官治ノ標準中ニモ訓示セラレタル所ニシテ、本官ノ税務署長ニ重ヲ置クモ畢竟此等ノ趣旨ト同一ニ帰着スルモノナリ、故ニ其職責ヲ重スルト共ニ其待遇ノ如

キモ事実ノ許ス限リハ之ヲ厚フスルニ吝ナラサルモノナリ、蓋シ本官ノ此考按ハ決シテ今日ニ発明セルニアラス、曾テ久シク此考按ヲ持セルカ故ニ、或ハ之ヲ実地ニ施行シ、或ハ之ヲ意見トシテ発表セルコトアリシカ、今ヤ本省ノ方針モ漸ク此方向ニ向ヘタルモノヽ如ク、彼ノ枢要ナル税務署ノ署長ハ高等官ヲ以テ之ニ充テラレ、司税官補乃チ今ノ司税官ノ如キモ本局ニ其数ヲ減シテ税務署ニ加ヒラルヽカ如キ、其一端ヲ窺ヒ知ルニ余リアランカ、以上ノ理由ヨリ税務ノ拡張ニ伴フテ署長諸君ノ責任ヤ重ヲ加フルト共ニ、其位置亦高マラサルヲ得サルハ自然ノ勢ニシテ、前途甚タ多忙ナリト謂ハサルヘカラス、諸君乞フ自愛セヨ

二

本官ノ税務署長ニ望ヲ嘱スルノ重且大ナルハ前ニ述フルカ如シ、然レトモ是レ畢竟本官ノ理想ノミ、此理想カ果シテ事実トナリテ発現スルヤ否ヤハ、一ニ諸君ノ責任ヲ重スルノ如何ト成蹟ノ挙ルト否トニ存ス、本官ガ諸君ヲ待ツ所以ノ理想斯ノ如シト雖トモ、諸君ノ之ニ応スル反響ノ如何ニヨリテハ、事実却テ理想ト反対ノ結果ヲ見ルモ亦知ルヘカラス、要ハ諸君ノ自重如何ニ在リ、若シ夫レ諸君ニシテ本官カ信スルカ如ク其責任ヲ重セス、成績ヲ挙クル顕著ナルモノアルナカランカ、之ニ所スルノ途ハ仮令理想ニ反スルアリトスルモ、局長トシテノ本官ハ細大干渉ノ方針ニ出ルノ止ヲ得サルニ至ラン、然レトモ是レ素ヨリ本官ノ本旨ニアラス、諸君カ自カラ招カレタルモノト覚悟セサル可ラス、希クハ諸君本官ヲシテ諸君ノ事務執行上ニ充分ナル信任ヲ置カシメ、此理想的方針ヲ遂行セシムルニ努メラレンコトヲ望ム、以上述ヘ来リタルカ如ク、本官ハ重キヲ諸君ニ置キ成ルヘク権限ヲ委任シテ干渉ヲ避クルノ方針ヲ希フト雖モ、亦諸君ニ潜越随意ノ行動ヲ全諾スヘシトノ趣旨ニアラサルハ勿論ナリ、此間又秩序ノ井然タルモノナカルヘカラス、乃チ本官ト諸君及諸君ト署員トノ間ニハ上下ノ関係、事務ノ分界自ラ一定スルカ故ニ、各其地位ニ従ヒ其本分ヲ尽クシ互ニ畛域ヲ慎ミ分限ヲ守リ、相犯スナク相狎ルヽナク規律ノ厳粛ヲ保持スルノ要アリ、若シ夫レ上司ノ権限ニ踏入リテ命令ヲ等閑ニシ、自説ヲ固持シテ処分ヲ強要スルカ如

キアラハ、何ヲ以テカ官紀ノ整粛ヲ維持スルヲ得ンヤ、然レトモ厳粛ニ過キテ円満ヲ欠クハ又恐ルヘキノ害ナルカ故ニ、此点ニ就テハ亦慎重ナル注意ヲ以テ互ニ同心協力シテ一致ノ運動ヲ為スヲ期セサルヘカラス、乃チ各自ノ間ニ存スル厳域ニ対シ之ヲ連鎖スルニ協和ヲ以テセハ、一条ノ溝渠茲ニ疎通セラレテ命令一下忽チニシテ行ハルヽ、恰モ水ノ低キニ従フカ如ク事務執行上円転滑脱ノ妙用ヲ得ルニ至ラン

三

本官カ署長諸君ニ俟ツ所ノ要ハ略ホ領セラレタルヘキヲ以テ、進ンテ尚多少ノ所見ヲ述ヘントス

当局事務ノ成蹟ニ就テハ着任日尚浅ク未タ其一班ヲモ窺知ルナキヲ以テ、早計ニ論評ヲ下スハ本官ノ欲セサル処ナリト雖、之ヲ従来ノ経過ニ徴シ又之ヲ監督ノ事蹟ニ尋ヌルニ、遺憾ナカラ本官ハ未タ以テ満足スル能ハサルモノナキニアラス、蓋シ廿九年官制ヲ改正シ税務管理局ノ制度ヲ設ケテ之ヲ大蔵省統轄ノ下ニ置カレタル所以ノモノ、要スルニ税務ノ改善刷新ヲ図リ事局ニ応セシムルノ趣旨ニ出テタルヤ明ナリ、翻テ之ヲ現在ノ実蹟ニ徴スルニ、開局以来茲ニ二年ノ星霜ヲ閲シテ尚ホ未タ置局ノ精神ニ副フ能ハサルノ憾アルハ何ソヤ、勿論当局ノ如キ開局以後不幸ニシテ局長及司税官ノ交迭頻繁ニ行ハレタリシヲ以テ局務ノ統一ヲ全フスルニ遑ナク、従テ屢々方針ノ変更ヲ見ルカ如キ事情アリテ嶄然タル成蹟ヲ挙クルニ至ラス、寧ロ他局ニ比シテ一等ヲ輸スルノ已ムヲ得サルモノアルヘシト雖モ、其責任ハ果シテ之ヲ誰ニカ帰セン、取リモ直サス現在継承者タル本官ト諸君トカ分テ以テ整理挙揚ノ責務ヲ有スルモノニアラスヤ、署長諸君ハ此論定ヲ首肯センニハ税務整理ノ重任ハ、前述セルカ如ク偏ニ署長諸君ノ健全ナル双肩ニ待タサル可ラサルモノナルカ故ニ、諸君願クハ熱心ナル励精ト経理トヲ以テ、開局当初ノ決心ニ遡リ創業事務ニ当ルノ覚悟ヲ以テ、直前勇往進テ他管理局ノ模範トモナランコトヲ望ムモノナリ

四

税務執行ノ大方針ニ関シテハ曩ニ開局ノ当初松方大蔵大臣ノ訓諭アリ（三十年一月廿五日移牒）、次テ去ル八月十五日松方大蔵大臣ノ訓示アリ、又官吏ノ服務心得トシテハ一般官吏ノ服務規律ナルモノアリ、特ニ廿九年十一

月廿八日税務官吏ノ服務心得トシテ訓告セラレタルアルヲ以テ、税務執行上ノ方針及其服務方ニ関シテハ諸君既ニ着々服膺、聊カ遺憾ナカルヘキヲ信スルカ故ニ、過般ノ演達ハ極メテ其大綱ヲ述ヘタルニ止ルヲ以テ、今亦茲ニ喋々之ヲ敷衍スルノ煩ヲ省クヘシト雖モ、総テ教訓ナルモノ之ヲ聞クヤ事理ノ当然ナルモノトシテ敢テ之ヲ怪マサルモ、之ヲ行フヤ極メテ困難ナルモノナリ、以上ニ於ケル訓諭訓告ノ如キモ余輩税務官吏タルモノヽ慎重ニ恪守遵奉セサル可ラサル金科玉条ニシテ、須臾モ忽諸ニ付スヘカラサルモノタルコトハ、誰レカ之ヲ首肯スルニ躊躇スルモノアランヤ、然ルモ之ヲ実践躬行シテ遺憾ナキヲ期スルハ又極テ至難タルヲ疑ハス、蓋シ其言フ所ノ理ハ極メテ当然ニシテ敢テ咀嚼ノ労ヲ要セサルカ故ニ、軽々ニ速了シテ高閣ニ束ネ以テ実際ノ行動ニ適応スルノ作用ヲ忘却スルノ粗漏ニ帰セスンハアラス、願クハ諸君及其他ノ各員ニ於テモ能ク此等ノ意ヲ体シ、此際充分熟読玩味シテ其真意ヲ了シ実践躬行ノ実ヲ全フセラレンコトヲ、此等ノ方針ヲ誤ラス、此等ノ心得ニ背カサルニ於テハ税務ノ整理ハ期セスシテ成リ、事蹟ノ挙ラサルヲ欲スルモ亦豈得ヘケンヤ

五

官吏トシテ能ク官吏ノ本分ヲ弁知セサルモノ世間往々其例ナキニアラス、而シテ諸君カ此等ノ輩ヲ訓諭セラルヽニ当リ、若シ本官ト諸君トノ間ニ於テ官吏タルモノヽ身分心得方ニ関シ其見解ヲ異ニスルアラハ、図ラサル感情ノ衝突ヲ来スナキヲ保セス、乃チ予メ一言之ヲ弁セサル可ラス、蓋シ本官ノ見解ヲ以テスレハ、凡ソ官吏ナルモノハ国家政務ノ一部ヲ処理スル所ノ機関ニシテ、上陛下ニ対シテハ特別ノ服従関係義務関係ヲ有シ、普通臣民以外ニ特別ノ負担ト特別ノ責任ヲ有スルモノナリ、即チ官吏ハ絶対的命令ノ下ニ働クモノニシテ、合意契約ニ依リ官吏ノ身分ヲ得ルモノニアラス、官吏服務規律第一条ニ凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ対シ忠順勤勉ヲ主トシ、法律命令ニ従ヒ各其職務ヲ尽スヘシトアリ、即チ官吏ハ忠実ニシテ熱誠ナラサルヘカラサルハ勿論ナリ、若夫レ職務ニ冷淡ニシテ忠勤ヲ欠クアランカ、仮令一部ノ事務ニ堪能ナリト雖、決シテ忠良ナル官吏ト謂フコト

ヲ得サルノミナラス、官吏ノ本分ヲ尽クスモノト謂フヘカラズ、抑モ職務ナルモノハ自然ニ其主ヲ有スルモノニアラス、又独立シテ存在スルモノニアラス、官吏其人ニ随従シテ始テ職務ナルモノアルモノニシテ、官吏以外ニ職務ナク職務以外ニ官吏ナシ、故ニ官吏ニシテ其自己ノ職務ニ属スルモノハ、我有ナリ我物ナリトシテ処理スルコトナクンハ、国家政務ノ一部ハ忽チ其主ヲ失フテ適帰スル所ナキニ至ラン、官吏ノ責務亦重カラスヤ、然ルニ世間往々此理ヲ誤解シ自ラ以テ彼ノ下層労働社会ト同一視シ、俸給ナル労銀ニ働作スルモノト謬信スルモノアルカ故ニ、或ハ形式的勤労ヲ以テ一時ヲ糊塗シ、上官ノ耳目ヲ欺瞞シテ得タリト為スカ如キ、或ハ増員請求ニシテ容レラルヽナクンハ、事務ノ不整理ハ自己ノ責ニアラスト言フカ如キ無責任ノ挙動ヲ演スルニ至ルモノ、是レ畢竟官吏ヲ以テ雇傭契約ニ成レルモノト誤解スルニアラサレハ、労働的心情ヲ暴露スルニアラスシテ何ソヤ、官吏ハ決シテ俸給ノ為メニ働クモノニアラス、又請負業ヲ営ムモノニアラス、又素ヨリ他人ノ依頼ニヨリ代弁スルモノニアラス、絶対的命令ノ下ニ自己ノ職責ヲ尽スモノナリ、一個人ノ私情ヨリスルトキハ或ハ忍フヘカラサルモノアルヘシト雖モ、苟モ官吏タル以上ハ東転西移任地ノ交替ノ如キ、豈敢テ慊焉ノ情ヲ抱クヘキノ理アランヤ、況ンヤ為ニ職務ノ忠実ヲ欠クカ如キヲヤ、是レ実ニ官吏ニシテ官吏ニアラサルナリ、以上即チ本官カ官吏ノ身分ニ下ス解釈ニシテ、自ラ常ニ此解釈ニ違フナキヲ期スルモノナリ、故ニ苟モ此趣旨ト違モノアランカ、即チ是レ本官ノ趣旨ニ違フモノニシテ、換言スレハ本官ノ施設ヲ沮礙スルモノト謂ハサル可ラス、本官ハ当局内幸ニ此等ノ輩ナキヲ確信スル所ナリト雖、諸君ト相見ルヲ機トシ婆心一言諸君ノ注意ヲ促スモノナリ、乞フ之ヲ諒セラレヨ

六　法令ノ施行ハ最モ慎重ヲ要スルモノニシテ、若シ同一税務管理局ノ下ニ在リテ寛厳其度ヲ異ニスルカ如キアラハ、啻ニ法令ノ施行ヲ全フシ事務ノ整理ヲ遂クル能ハサルノミナラス、一面ニハ人権ノ消長ニ関係シ、一面ニハ国家

ノ休戚ニ影響ス、是レ税務統一ノ要アル所以ニシテ置局ノ精神亦此ニ存スルヲ疑ハス、然ルニ我管理局ハ三県ノ税務ヲ統轄スルヲ以テ、地理人情ノ異ナル風俗習慣ノ同シカラサル、遽ニ之カ抱合画一ヲ望ムヘカラサル事情アルヘシト雖、星霜二年ヲ閲シテ尚未タ置局ノ趣旨ニ適合スルノ域ニ達セサルハ、本官ノ極メテ遺憾トスル所ナリ、蓋シ税務ノ統一ヲ図ル啻ニ法令ノ完備ヲ以テノミ能クスヘキニアラス、法令ノ妙用ハ実用ノ上ニ在リテ法文ノ上ニ在ラス、法令ハ形式ノミ法令ハ人ニ依リテ死活ス、即チ執行ノ局ニ当ルモノヽ運用如何ニ依リ、或ハ死法トナリ或ハ活法トナル、即チ精神的ノ作用法文上ノ形式ニ伴フニアラスンハ法令ノ妙用ヲ全フスルニ能ハサルト共ニ、税務ノ統一モ得テ期ス可ラス、然則チ此精神的ノ作用ヲ同一ニシ、法令執行寛厳ノ程度ヲ均フシ税務画一ヲ図ラント欲セハ、果シテ如何ノ法カアル、本官ヲ以テ之ヲ見ルニ本局カ監督ヲ頻繁ニスルモ其一法ナルヘク、諸君ノ会同ヲ為スモ亦其一法ナルヘシト雖、抑亦三県割拠ノ風ヲ破リ打テ之ヲ一団トナシ、彼我ノ区別ヲ廃シ自他ノ分界ヲ設ケス、丸亀税務管理局ナル税務ノ新天地ニ協同一致、精神的作用ノ交換ヲ為スヲ以テ最モ捷径ナリト信ス、熟々思フニ総テ行政事務ハ慣習即チ流儀ニ依リテ制セラルヽコト多シ、換言スレハ法文以外ニ各自ノ手加減ニヨリテ寛厳精粗ノ区別ヲ生スルニ至ルモノナリ、三県ニハ三県従来ノ慣習アリ流儀モアラン、此区々ナル慣例区々ナル流儀ヲ以テ法令ヲ執行セント欲セハ、仮令規矩準繩ヲ同一ニスルモ、豈執行上ニ事務ノ画一ヲ望ムヲ得ンヤ、今ヤ税務画一ハ理論ニ於テモ実際ニ於テモ一般ノ是認セサルヘカラサル所ナルヲ以テ、是非トモ丸亀税務管理局ナル名詞ノ下ニ新慣習ト新流儀ヲ作成シ、此目的ヲ達セサル可ラズ、之ヲ遂クルハ即チ区々タル地方感情ノ撤去ヲ要スルモノナリ、然レトモ慣習ノ浸潤セル一朝一夕ニアラス、習性トナル仮令善政ナリト雖、急激ノ変化ハ之ヲ避ケサル可ラス、故ニ本官ハ漸ヲ以テ之ヲ実地ニ施サントス、元来地方割拠ナルモノヲ解剖スレハ是レ只一個ノ感情ノミ、感情ノ融和既ニ成ル、地方割拠ノ念モ亦全ク霧消スルニ至ラン、感情ノ融和ハ本官ノ努テ図ラント

期スル所ナリ、諸君及他ノ各員ニ於テモ此意ヲ諒セラレンコトヲ望ム

七

過般公布セラレタル官制改正ニ伴フ所ノ総理大臣官治ノ標準ナルモノハ、諸君ト共ニ吾々ノ恪守遵奉セサルヘカラサル準縄ナルヲ以テ、本局ニ在リテモ切々偲々之カ実行ヲ努ムノ本旨ニシテ、就中官紀ヲ振粛スル事、経費ヲ節省スル、事務ヲ敏活ニスル事等ニ関シテハ特ニ又諸君ノ注意ヲ促サヽルヲ得ス、事務ノ繁縟ヲ省キ敏捷ヲ図ル[事脱カ]ト云フ事ニ関シテハ、是レヨリ親シク諸君ト協議セント欲スル一事項ニシテ、其下僚ノ俸給ヲ厚クスルト云フコトニ関シテハ、経済ト事情ノ許ス限リ之カ実行ヲ期セント欲ス、今回多少ノ昇級者ヲ見ルカ如キ、畢竟此官治標準ノ主旨ト前述セル本官ノ理想トニ基キタルモノナルカ故ニ、同進者中或ハ甲乙ヲ比較シテ技倆ノ上ニ人物ノ上多少権衡ヲ失スルカ如キ遺憾ナキニアラサルヘシト雖モ、素ト論功行賞ノ主旨ニアラスシテ他ノ必要ヲ認テ決行シタルモノナルヲ以テ、其賞罰黜陟ニ至テハ之ヲ将来ノ実績ニ徴シ厳正粛々寸毫ヲ借サス、其褒貶ヲ断行スヘキ方針ナレハ、今回昇級者ノ如キモ敢テ傲ルニ足ラス、其選ニ洩ルヽモ亦敢テ憂フニ足ラス、要ハ即チ将来ニ於ケル本官ノ選択ニ待テハ可ナリ、語茲ニ及フ一言諸君ニ告クルモノアリ、本官不肖ト雖事ヲ処スルニ当リ、言ヲ左右ニ盲信シ腹案ヲ嬖諂ニ求ムヲ忌ムモノナリ、広ク耳目ヲ開テ諸君ニ聡慧ナル智能ト公明ナル識見ノ注入ヲ待タン、幸ニ之ヲ諒セラレヨ、知ラス話頭圏外ニ脱ス、翻テ下級官吏ニ就テ悉サン、今日物価高騰ノ折柄薄[ママ]級者ノ如キハ衣食住ノ急ニ逐ハレ、独リ官吏ノ体面ヲ維持スル能ハサルノミナラス、往々職ヲ他ニ求メテ其地位ニ安セサルカ如キ傾アルハ一般ノ認ムル所ニシテ、実ニ税務不振ノ一大原因ナルヘキカ故ニ、之レカ待遇法ヲ講スルハ素ヨリ目下ノ急務トスル所ナリト雖、亦職務ニ忠実ナルト否トハ独リ俸給ノ厚薄ニノミ依ルモノニアラス、其実偏ニ道義心ノ存否ニ関スルモノト信ス、故ニ諸君ノ如ク下僚統御ノ地歩ヲ占ムルノ先輩ハ宜シク指揮啓発シテ官吏ノ気風ヲ養成シ、道義心ヲ発達セシメテ忠良ナル官吏ヲ育成スルモ亦其任タルヲ忘ル可ラス、而シテ定員ヲ減ス

ルノ事ハ目下ノ現況ニ於テ甚タ欲セサリシ所ナリト雖、官制改正ノ結果亦如何トモ為ス能ハス、過般定員改定ヲ為スノ止ヲ得サルニ至レリ、然レトモ税務署ニ対スル本官ノ観念前述ノ如クナリシヲ以テ、成ルヘク本局ニ減シテ税務署ニ減セサルノ方針ヲ取リタリト雖、素ト三十七名ト云フ多数ノ減員ニシテ、一署平均一人七分六厘ノ減歩合ニ当ルヲ以テ、勢一署ニ一人乃至二人ヲ減セサルヲ得サルノ結果トナレリ、然レトモ官治標準中ニモ云フカ如ク、行政事務ノ挙否ハ官吏ノ能不能ニ在リテ、其人員ノ多寡ニアラサルカ故ニ各責任ノ帰スル所ヲ明ニシ、所謂材能其用ヲ尽クシ吏僚其職ヲ曠フセス、成ヲ責メ績ヲ考ヘ定員ヲ減セラルヽノ趣旨ヲ全フセラレ、員ヲ備フルヲ求メスシテ職ニ堪ユルモノヲ努メ、従来ノ如ク軽シク完員[足カ]ノ不足ヲ訴ヘ、過ヲ他ニ嫁スルカ如キコトナカランコトヲ望ムモノナリ、而シテ本局ニ在リテハ考課ノ法ヲ十分ニ慎ムヘキヲ以テ、諸君亦部下ノ能否勤惰ヲ申報スルニ当リテハ尤モ能ク之ヲ慎ミ、情実ニ流レス感情ニ制セラレス公平偏頗ノ処置ナカランコトヲ望ム、彼ノ甲署ニ於テ技能アリ励精ナリト称セラルモノ、乙署ニ移スニ当リ殆ト為スナキモノヽ如ク評セラルヽ等ノ実例ナキニアラス、是レ全ク其孰レカ人ヲ見ルノ眼識ナキカ、又ハ人ヲ容ルヽノ雅量ナキノ結果ト謂ハサルヘカラス、尚序ニ一言スヘキハ過般来局署員ニ多少ノ交替ヲ決行セルノ事ナリ、時恰モ酒造最盛期ニ際シ、特ニ年末ナルヲ以テ多少事務ニ沮害ヲ与ヘタルノコトアルヘキハ本官モ遺憾トスル所ナリト雖、官制改正ノ結果ヨリ又本官ノ見ル所ヨリ此挙ニ出テタルモノニシテ、其要不要ハ敢テ茲ニ説クノ要ナキニヨリ之ヲ述ヘスト雖、諸君幸ニ之ヲ諒セラレヨ

八

税務ハ国政事務中最モ詳密精覈ナルモノニシテ、裁量処分ヲ以テ大部分ヲ占ムル他ノ国政事務ト大ニ其趣ヲ異ニシ、総テ法規ノ施行ニ係リ又多ク算数ノ事務ニ属スルヲ以テ、法規ノ解釈ニ誤解アルハ勿論、算数ノ結果ニ差違アルヲ許サザルナリ、即チ一字一句ノ誤解一厘一毫ノ差違ハ忽チ国家ノ税額歳入ト人民ノ権利義務ニ関係ヲ有ス

ルモノナルヲ以テ、之レカ処理ニ当リテハ最モ慎重ナル注意ヲ以テ、極テ精細ナル研究ヲ遂ケ極テ緻密ナル調査ヲ為シ、苟モ過誤遺漏ナキヲ期セサルヘカラス、粗漏杜撰ノ処理ヲ為シテ賦課徴収ノ法ヲ誤リ、決算収支ノ数ヲ違フコトアランカ、啻ニ違法違令ノ処分トシテ非難ヲ免ルヘカラサルノミナラス、仮令後日ニ至リ其誤謬ヲ発見シテ之ヲ訂正スルモ、為ニ一般事務ノ進行ヲ沮害シ紊乱渋滞ヲ醸ス決シテ鮮少ニアラサルナリ、些細ナル調査物件ニ誤調違算ノ多キカ如キハ、全ク研究ノ足ラス調査ノ至サル結果ニ外ナラス慎マサルヘカラス、而シテ税務ハ又総テ期限ナルモノニ羈束ヲ受ケ分界ヲ限ラルヽモノニシテ、時宜ニ依リテ伸縮スルヲ許サヽルナリ、事務ノ順序処理ノ方法一ニ期限ニ依リテ決セサルモノナシ、故ニ此期限ニ依ラサルモノハ或ハ処分ノ無効トナリ或ハ事務ノ渋滞トナツテ、延テハ遂ニ全部ノ成績ヲ挙クル能ハサルニ至ル、期限ナルモノ亦忽諸ニ付スヘカラサルナリ、況ンヤ税務ヲ統括スルニ当リテハ、一部期限ヲ衍ルモノアルカ為メニ全部ノ成績ヲ傷クモノアルニ於テヲヤ

九

抑モ直税ト間税トハ其徴税ノ基礎ニ於テ既ニ異ルアルヲ以テ、其施行ノ方法及程度ニ於テ自ラ緩急ノ区別アリ、従テ之ニ従事スル吏員ノ如キモ其適任者ヲ選択シテ之ニ充ルノ必要アリ、従来ノ方針モ亦之ニ外ナラスト雖、吏員ノ配置税務ノ頻繁ニ伴フ能ハサルヲ以テ、事務ノ兼掌ハ自然免ル能ハスシテ、独リ責任ノ帰スル所ヲ明ニスル能ハサルノミナラス賦課ノ適実ヲ得ル能ハス、為メニ事務ノ錯綜ヲ招キ紛乱ヲ致セルコト少シトセサルナリ、直税ト間税トハ其本質ニ於テ既ニ異ルカ故ニ、其事務上ニハ更ニ大ニ趣ヲ異ニスルモノナリテ、各特種ノ才能ト技術ヲ要シ熟練ト経験ヲ待タサレハ其殊功ヲ収ムヘカラス、而シテ其熟練ト経験トノ養成ハ分業事ニ当リ専門職ヲ励ムニ依リテ始テ之ヲ能クセシムヲ得可シ、是レ直税ト間税トノ事務ニ分界ヲ立テ従事者ヲ区別スルノ要アル所以ナリ、今日ノ現況全然之ニ依ル能ハサルモノアルヘシト雖、漸次此方針ヲ遂行セラレンコトヲ望ム

十

以下、少シク事務取扱方ニ関シテ言フ所アラントス

一　所得税法ハ政府ニ於テ目下改正案ヲ議会ニ提出セラレタルヲ以テ、議会通過ノ上ハ其施行規則ヲモ定メラルヘク、又従テ其取扱手続ヲ定ムルノ要アルヘキカ故ニ、今茲ニ喋々ヲ省クヘシト雖、改正案ニ依レハ従来府県知事カ取扱ヘ来レル事務ハ多ク税務署長ノ手ニ移リ、又其調査方モ新規ノ方法トナルヲ以テ、税務署長諸君ノ責任頗ル重ヲ加フルニ至ルモノトス、特ニ此案ニ注意スヘキハ税務署長ノ職権ガ法律ノ上ニ規定セラルヽノコト是ナリ、従来トテモ法律上税務署長ノ名ヲ見サルニアラスト雖モ、多クハ管理局長ノ傀儡師トシテ運動セルニ過キサリシ、前ニ述フル所ト対照セラレンコトヲ望ム

一　営業税ハ既ニ二ケ年ノ経験ニヨリ調査方法等概ネ一定セルカ如シト雖モ、素ト創始ノ事務ニ属スルヲ以テ調査ノ標準等ニ至リテハ未タ一定セサルノ憾ナシトセス、来年度ニ在リテハ各所区々ノ弊ヲ矯メ一定ヲ図ラント欲スルナリ、尚諸君ノ熟考ヲ望ム、営業税ハ諸君モ知ラルヽカ如ク極メテ物議ノ多キモノナルヲ以テ、物件ノ調査官吏ノ行動ニハ特ニ注意セシメラレンコトヲ要ス、而シテ其巧妙円満ナル成果ヲ収ムルハ一ニ署長諸君ノ技倆ニ一任セサルヲ得ス、営業税ノ改正案モ目下議会ノ議事中ニ係ルヲ以テ、通過ノ後ハ施行ノ方法モ自ラ変更スルコトトナルヘシ

一　地租事務取扱手続ハ三県区々未タ一定ノ規程ナク経理上不便ヲ感スルコト少カラサルヲ以テ、不日之ガ規定ヲ改正セントス、地租増徴地価修正案モ当時議会ノ議事中ニ係ル、惟フニ地租事務ニ一般ノ繁劇ヲ加フルニ至ル、期シテ待ツヘキナリ、言フ迄モナク地租ハ租税中最モ歳入ノ多キモノニシテ、亦極メテ微細ナル数字上ノ事務ニ属スルカ故ニ、最モ精緻ナル取扱ヲ要スルモノナリ、吏員中多クハ問税事務ヲ好ミ地租事務ヲ避クノ傾向アリ、甚タ慨嘆ニ堪ヘス、願クハ能ク其材能ニ依リテ分掌ヲ明ニシ、事務ノ進捗ヲ図ルニ努メラレンコトヲ

一　酒造税ハ地租ニ次クノ歳入ナルモ、其施行方法ノ如何ニ依リテハ多クノ逋税ヲ招キ易キヲ以テ、之レカ施行ハ

亦最モ注意セサルヘカラス、酒造税、混成酒税等ノ増税、自家用酒ノ廃税、亦当ニ行ハルヽヲ覚悟セサルヘカラス、間税事務ノ多端亦実ニ昔日ノ比ニアラス、能吏ヲ要スルノ急益迫レリ、願クハ薫陶撫育能ク人才ノ養成ヲ図リ、形式ニ流レズ精神的ノ涵養ヲ努メラレンコトヲ、特ニ税率愈々高マレハ脱税愈々増スニ至ルハ免ル可ラサルノ数ナルヲ以テ、層一層ノ警戒ヲ加ヘラレンコトヲ、今ヤ彼ノ犯則逋税ヲ検挙摘発スル所謂間税警察ト称スルモノハ、愈々発達完成ヲ図ラサルヘカラサルノ時機ニ達セルナリ

一　徴収事務ハ徴税ノ目的ヲ達スル最終ノ事務ニシテ最モ枢要ナル機務ニ属ス、或ハ納税告知書ヲ発スレハ税務ハ了セリ、納期ニ至リテ納付セサルモノハ滞納処分ヲ為セハ足ルト解スルモノアルハ誤レリ、徴税ノ目的ハ円満ナル完納ヲ求ムルニ在リ、滞納処分ヲ多クスルヲ以テ能事ト為スヘカラス、即チ国民ニ納税義務ノ重スヘキヲ了得セシメ、自ラ進テ納税スルノ美風ヲ養成スルヲ必要トスルナリ、人民滞納処分ニ馴ルレハ徒ニ労費ヲ多クシ実益ナキノミナラス、其弊延テ法ヲ軽シ義務ヲ怠ルノ風ヲ生シ其害ヤ税務ノ沮礙ヲ来シ国家ノ不利ヲ見ルニ至ル、豈恐レサル可ケンヤ

一　事務成績ノ挙否処務計画ノ適否ニ関シ経費ノ豊約ニ比準スルモノニアラス、即チ適実ナル計画ヲ立テ経費ノ効用ヲ厚フスルハ税務ノ完全ナル整理発達ヲ図ルノ要訣ナリ、而シテ会計ノ事務ハ事業各般ノ経理ヲ為スモノニシテ、会計事務ノ巧拙ハ実ニ事業ノ消長ニ係ル、本局カ各署ニ予算ノ配賦ヲ為シ物品会計官吏ヲ置クニ至リタルハ、一ハ事務ノ敏活ヲ図ルノ趣旨ニ出テ、一ハ会計ノ思想ヲ養成セシムルノ趣旨ニ出テタルモノナルヘシト雖トモ、抑モ亦署長諸君ヲ信スルノ厚キニ委任セルモノニ外ナラス、願クハ此意ヲ体シ経費ヲ省キ節約ヲ主トシ、出納ヲ慎ミ整理ヲ全フセラレンコトヲ

十一　其他注意ヲ請フヘキモノ種々アリト雖モ、受付ニ関シ一二ノ例ヲ挙クレハ左ノ如シ

一　署長ノ受付ヲ為スハ、署長ト関係者トノ間ニ一ノ取扱者ヲ介スルトキハ、其介在者カ双方ニ対シ之ヲ処弁スルカ為メニ無用ノ手数ト時間トヲ徒費スルノ弊ヲ避クルノ趣旨ニ外ナラサルヲ以テ、署長ハ最モ便利ノ場所ヲ選テ其席ヲ設クヘシ

一　即決ハ事務ヲ敏捷ナラシムルノ要訣ナリ、故ニ事務ノ性質上即決ヲ許サル丶場合、例ヘハ実地検査ヲ要スルカ如キモノヲ除クノ外ハ即時処理ノ方針ヲ決シ、以テ事務ノ淹滞ナカラシムヘシ

一　総テ事務ハ署長ニ於テ其軽重緩急ヲ区別シ適応ノ処理ヲ為スヘシ

一　総テ事務ヲ処弁スルニ方テハ当業者ニ対シテ煩労ノ感念ヲ与ヘス、軽便簡易ナルヲ主トシ常ニ誘導啓発ノ心ヲ以テ親切ニ之ヲ待遇スヘシ

一　親シク面談又ハ尋問スルニアラサレハ之ヲ処弁シ難キモノヲ除クノ外、事軽易ニ属スルモノハ成ルヘク呼出ヲ為サスシテ、事件ノ要領ヲ記シタル書面又ハ使丁ヲ以テ之ヲ処弁スヘシ

一　願届書ノ様式ニ違フモ、其要領ヲ失ハス又ハ事ニ害ナキモノハ、適宜補修ヲ加ヒ又ハ其儘受理スル等、成ルヘク徒労遅滞ノ弊ヲ避クヘシ

一　出頭者ニ対シテハ速ニ面会応答シ徒ニ業務ノ時間ニ妨ナカラシメ、又ハ当用ヲ了リタル後余談ニ渉リ時間ヲ徒費シ規律ヲ乱スノ弊ナカラシムヘシ

一　徒ニ事ノ鄭重ヲ期シ又ハ処理上ノ便宜ニ基キ当業者ヨリ書面ヲ徴スル等ノ弊ヲ除キ、成ルヘク口頭申告ノ範囲ヲ拡ムヘシ

以上述ヘ来ル所ハ、要スルニ税務官吏服務心得ニ言フ所ノ範囲ニ出テス、其言ノ冗長ニ渉リ説ニ重複アルカ如キハ、畢竟税務挙揚ノ実ヲ欲スルノ切ナルニ出ツ、諸君願クハ此意ヲ了シ別ニ配布セル諮問案等ニ就キ、本会席上各胸襟ヲ

披テ所見ヲ陳シ、空理ヲ去テ実益ヲ考ヘ、丸亀税務管理局ニ於ケル税務百年ノ根底ヲ定ムルアラハ、是レ独リ一局ノ幸ナルニ止ラス、実ニ国家ノ福祉ト謂ハサル可ラス、由来本会ニ嘱望スル所実ニ茲ニ存ス、開期長カラスト雖モ諸君ノ労ヤ大ナリ、本官ハ諸君ト面識ヲ得タルヲ喜フト共ニ、其卓説ヲ聞クヲ楽シムモノナリ

（昭60　高松　3）

21　明治32年4月　直税事務専担者配置の件

主秘第一二一号

世運ノ増進ト共ニ租税ニ関スル法規モ追々改正セラルヽコトニ相成、特ニ直接税タル地租、所得税、営業税等ニ関シテハ、最近一両年ニ於テ其法律又ハ規則ヲ改正若クハ制定シ、取扱振トハ著シク変更シタル所モ有之、且ツ所得税、営業税ノ調査ノ如ク人ノ機密ニ係ル事項ヲ調査スルモノニ在テハ、之レカ主任者タル者法規ヲ解釈シテ其適用ヲ誤ラサルヲ要スルト同時ニ、措弁其宜ヲ得事局ヲ円満ニ処理スルノ機才アルコトヲ要スルハ勿論ノ儀ニ有之、署長ノ任務ニ在テハ直税間税其他一般ノ庶務ヲ処理シ、彼是ニ偏セサルハ勿論ニ候得共、署員ニ於テハ直税ニ関シテハ専担者ヲ置クハ必要ニシテ、時ニ間税主任ヲシテ之ニ当ラシムルカ如キハ良好ノ方法ニアラスト思料致候、如斯直税事務ニ従事スル者ハ相当ノ人才ヲ要スル次第ニ有之候処、各税務署ニ於ケル直税事務従事者ハ、或ハ間税事務ニ従事スル者ニ比シ一籌ヲ輸スル者ナキニハアラサルヤノ感ナキニモ無之、直税事務ニ従事スルヨリモ寧ロ間税事務ニ従事スルコトヲ望ム者多キハ、今日税務官吏一般ノ状ナルカ如キコト、自然直税事務従事者ノ比較的適任者少ナキト、且ツ其人員ノ少数ナルトヲ致シタルニハアラスヤト被存候得共、直税事務ニ人物ヲ要スルコトハ、今後益々其必要ヲ見ルニ至ルヘ

クト存候、而シテ直税ニ関スル諸法律ハ改正セラレ地租取扱者ノ如キモ追々僅少ト為リシ今日ニ於テ、実際ヲ考フルニ其税ノ事務ニ適スルモノ迚ハ殆ント之ヲ得ルコト難キコトニ候得ハ、新タニ養成セラルヽヨリ他ナシト存候、又之ニ次クニ報酬ヲ厚クスルハ人ヲ得ルノ一端ニモ可有之、而シテ報酬ノ多キ所ニハ自然希望者ノ多ク集ルヘキハ無論ノ次第ニ可有之候得ハ、徴税費ノ増加セラレタル今日、成ルヘク直税事務従事者ノ支給ヲ厚クシ、相当ノ人物ヲシテ之ニ従事スルニ至ラシメ、直税間税共ニ良好ノ成績ヲ得ルコトニ御配慮可有之、此段及内牒候也

明治三十二年四月十九日　　大蔵省主税局長　目賀田種太郎

広島税務管理局長　岩崎奇一殿

（平18　広島　11）

22　明治32年5月　開港場所在の局署事務取扱内議

主秘第一三六号

本省条約改正実施準備委員ニ於テ、今回別紙ノ通大体ノ趣旨内議相成候条、右ハ開港場所在地ノ局署ニ於テハ事務取扱上必要可有之ト存候間、為参照一部及御送付候也

明治三十二年五月六日　　大蔵省主税局長　目賀田種太郎㊞

函館税務管理局長　勝田主計殿

一　義務トスルニアラサルモ、便宜ノ為メ各税法及施行規則等ノ英訳若クハ仏訳ヲ局内署内ニ備ヘ置キ、関係者ノ閲覧ニ供スルコトアルヘシ

一　右ノ外納税手続便覧ナルモノヲ英仏文ニテ作リ、多クハ其要領ヲ之ニ記載シ一読スレハ渾テノ事情ノ詳明ナルヲ得セシムルコトヲ計ルコトアルヘシ

一　書式ハ日本文ヲ以テ主トシ、裏面若クハ片端ニ英訳又ハ仏訳ヲ付スルコトモアルヘシ

一　納税者ヨリ差出ス書類、時トシテ外国文アルモ便宜ノ為メ取置キ妨ケナシ

一　間接国税犯則処分法第十一条ノ通知書ノ如キモノハ前項ノ例ニアラス、日本文ノミニ限ル

一　呼出状其他ノ場合ニ於ケル日本文ニ用フル呼称ハ、男女ニ係ラス何ノ誰殿ト記載シ、ミストル、モツシユール、ヘル等ノ呼称ハ口頭ニテハ随意ナルモ書面ニハ用ヰス

一　官名又ハ爵名ハ其日本トノ相当明カナレハ日本語ニテ書ス、不分明ナレハ其国称ヲ仮名ニテ書ス

一　総テ文体ハ尊卑ノ別ヲ存セサル事トシ成ルヘク中庸ナル語ヲ用フ、日本人ニ対シテモ又同シ

一　総テ取扱ハ必ス日本人ト同一ナルコトヲ要ス、故ニ今ヨリモ諸般ノ注意ト日本人ノ取扱ヲ成ルヘク鄭寧ニスルコトヲ要ス

一　以上列記ノ如キ事ハ税関ニ於テハ現行スル所ナリ、尚ホ之ヲ拡充シテ彼是斟酌スル所アリテ可ナリ

（平1　札幌　104）

23　明治32年7月　改正条約実施に付内牒

庶乙第二二二九号

多年ノ問題タリシ改正条約ハ今ヤ既ニ実施セラレ、領事裁判権ノ撤去ト同時ニ内地雑居ノ状態トナレリ、而シテ政府ハ之カ為メ夙ニ条約実施準備委員ヲ設ケ周到ナル調査ヲ遂ケ、今回　畏クモ懇篤ナル詔勅ノ煥発トナリ、或ハ内閣ノ訓令トナリ、或ハ主管大臣ヲ始メ次官局長ノ訓諭トナレリ、我税務海モ漸ク将サニ多事ナラントス、諸君ノ内外人ニ対シ執ルヘキ事務ノ方針ハ、幸ニ開局以来載セテ服務心得ニ明瞭タリ、惟フニ賢明ナル諸君ハ常ニ其任務ノ重大ナルコトヲ服膺セラレ、税務執行上敢テ遺憾ナキヲ期セラルヽハ信シテ疑ハサル所ナリ、然レトモ職ニ其局ニ当ルモノハ白今一層詔勅及訓令ノ趣旨ニ厚ク注意ヲ置カサルヘカラス、凡ソ訓令ノ要ハ実践躬行ヲ主トス、故ニ其実ナキニ於テハ千百ノ訓令アルモ更ニ其詮ナカルヘシ、蓋シ之カ実行ノ順序ハ第一之ヲ下僚ニ同時ニ同一ノ方法ヲ以テ、其事体ニ従ヒ伝告スルニアルト、第二平素ノ監督上之カ成蹟ヲ徴スルトニ有之、第三局署間ノ報告ヲ敏捷ナラシメ緩急ニ応シ諸般ノ施設ニ便ナラシムル等、是ナリ、如此ニシテ内部改良ノ方法秩序整然相立チ気脈一貫スルニ於テハ、改正条約等ニ関シ殊更本局長ノ訓令ヲ待タスシテ完全ナル税務ノ発達ヲ企図スルヲ得ルハ勿論、内外国人ヲシテ遺憾ナカラシムルニ庶幾カラン歟

依命此段内牒候也

明治三十二年七月廿七日

［横浜税務管理局］庶務課長　梅津　連印

藤沢税務署長　内田俊雄殿

追テ、別紙ハ在帝国米国公使ノ其国人ニ対スル訓告ノ翻訳ニ有之、為御心得及副牒候也

日本国ニ於ケル北米合衆国人民ニ与フル注意書

北米合衆国ト日本国トノ間ニ締結シタル新条約ハ本月十七日ヨリ実施セラレントスルニ際シ、其事実ヲ在日本国合衆国人民ニ告知シ、併セテ各自ノ権利及利益ニ関シテハ日本国臣民ト同様ニ、其国ノ法律及規則ヲ遵守セザルベカラザル維新ノ条件ト義務トヲ負担スルコトニ対シテ催告セントス

日本国ニ於ケル合衆国領事庁ノ裁判権ハ本月十六日限リ廃止セラルベシ、従テ合衆国人民ノ現時享有スル裁判権ノ一部又ハ付属タル特権免除及特典ハ全然消滅ニ帰スルト同時ニ、該権ハ日本国裁判所ニ於テ之ヲ執行スルニ至ルベシ

既ニ発布セラレタル　皇帝陛下ノ詔勅又ハ総理大臣閣下及各省大臣閣下ノ発シタル各種ノ訓令ハ、総テ日本国臣民ノ之ヲ遵守スルト同様ニ外国人モ等シク之ヲ遵守スルニ至ルヲ以テ、予ハ茲ニ在日本国合衆国人民ノミナラズ本国ニ於ケル人民ニ至ルマテ、大ニ満足セシトコロノ同意ヲ表スルモノナレバ、此等ノ義務ニ関シテハ合衆国民タルモノヽ最モ喜悦ニ感スルコトナルヲ以テ、日本国官吏若クハ其臣民ニ対シテ少シモ不平ヲ抱ク、一ノ事状ダモ存スルコトナキヲ確信スルナリ

又合衆国ノ人民ハ常時此国民トノ関係ニ於テ其行状ト行為ヲ以テ交誼ヲ有スル、此国民及其法律規則慣習ノ愛重スルノ念アル事ヲ知ラシメ、　皇帝陛下及政府ノ高官ニ因リ総ベテノ日本臣民ニ訓告セラレタル懇切慎重公平ナル取扱ニ酬フル為メニ、其相互ノ友情ヲ表明スヘシ

合衆国ハ列国ニ先タチ日本国ト和親修好及通商条約ヲ締結シ、歳ヲ閲スルニ従ヒ両国ノ交誼ヲ皇張増進セシヲ以テ、在日本国合衆国人民タルモノハ各能ク其本分ヲ守リ、本国人民ヲシテ批疑セシメザル様心掛ルコト必要ナリ

千八百九十九年七月十日　　米国公使
記名調印　　アルフレッド・イーバツ

（昭52　東京　1）

24　明治32年8月　混成酒税取締の実況

間第五九〇号

混成酒税取締ノ実況、別紙写之通リ川越税務署長ヨリ申報有之候処、目下混成酒類販売最盛ノ季節ニ付、取締上為御参照壱通及回送候也

明治卅二年八月廿三日

東京税務管理局
間税課長　岩政憲三印

東金税務署長　阪本次郎殿

（別紙）

第一〇七九号

酒精混成酒之取締方ニ就テハ、本年六月十三日付第七六九号ヲ以テ及上申置候処、抑モ酒精混成酒ノ弊害タル、既ニ一般ノ口吻ニ出テ敢テ喋々ヲ要セスト雖モ、酒精ノ密売、混成酒ノ密造ハ日ヲ追テ多キヲ加ヘ、既ニ焼酎ニ酒精ヲ混和シ逋税ヲ為シタルノ酒類ハ普ク各地ニ瀰漫シ、酒造家ノ利潤ハ漸ク奸商ノ手裡ニ壟断セラレントスルノ趨勢ニシテ、

混成酒税法ノ如キハ殆ト空文ニ属セントスルノ憾ナキ不能ルノ実況ニ陥リタリ、就中甚シキモノハ東京横浜等ヨリ輸入スル焼酎ニシテ、上等品ト称スルモ焼酎六分・酒精四分・水若干ヲ混和シタルモノニシテ、下等品ニ至テハ酒精八分・焼酎二分・水若干ニシテ、酒精ニ水及少量ノ甘精類ヲ混シタルモノモアリテ、其実焼酎ト認ムヘキモノ毫モ之ナク、是レ素ヨリ焼酎トシテ販売スルモ、悉ク一種ノ混成酒タルベキヤ多弁ヲ待タサルナリ、是レ畢竟混成酒ノ製造法タル其手段簡易ニシテ、而カモ酒精ヲ混和スルトキハ、其利得頗ル見ルヘキモノアルニ起因シ、此悪風ハ漸以酒商間ニ伝播シ、終ニ今日ノ結果ヲ見ルニ至リタルナルヘク、而テ其犯則検挙ニ至リテハ証憑集蒐上頗ル困難ナルヲ以テ、取締上ノ円満ヲ望ムハ最モ至難ノ業ニ属セリ、今夏季ニ於ケル酒類ノ需用ヲ考査スルニ、焼酎六分・清酒四分ニシテ、部内造家ノ製出スル焼酎ハ到底其需用ヲ満タシ難キヲ以テ、過半ノ供給ハ京浜其他各地ヨリ仰カサルヲ得ス、故ニ各地ノ逋税品ハ夏季一時ニ菌集スルニ至リシヲ以テ、専ラ之レカ取締ノ実ヲ挙ケンコトヲ期シ、過般上申ノ如ク特ニ担当員ヲ定メ、本年五月以来日夜取締方ヲ励行セシメタリシニ、逋税品ハ漸次跡ヲ収メ今ヤ全ク取締上遺憾ナキニ至リシニヨリ、本日ヲ以テ専担ヲ止メ、爾後単ニ他検査ノ途次執行スルヲ以テ、不足ナキヲ認ムルニ至レリ、其取締ノ結果トシテ焼酎七石、予定価格三百円ノモノ一時二百八十円ニ低落シタリシカ、目下三百十五円、清酒七石百七十円ノモノ百八十五円シテ、孰モ其価格ヲ高ムルニ至リタリ、殊ニ焼酎ハ一時殆ント不正品ニ圧セラレ到底翌年度ニ残留スヘキノ怨境ニ陥リシモ、目今殆ント品切レトナリシハ全ク取締法ノ結果トシテ、造家ハ挙テ歓喜スル所トナレリ、而シテ検査執行方ハ悉ク酒類販売者ノ店舗ニ就キ親シク其品質ヲ査確シ、若シ逋税品ト認ムヘキモノハ其買得先キニ遡リ周到緻密ノ調査ヲ遂ケ、彼等ヲシテ遁逃途ナキニ至ラシムルノ方法ヲ採リシモ、徒ラニ細故摘発悪感情ヲ惹起セシムルカ如キハ之レヲ避ケ、努メテ犯罪ヲ未萌ニ防遏シ、以テ税法ノ威厳ヲ保チ逋税ノ弊風ヲ矯メンコトヲ期シタリト雖トモ、必要ヲ認メテ処分請求ヲ為シタルモノ十人ノ多キヲ見ルニ至レリ、今ヤ酒精税法廃止ニ至リ混成酒ノ取締上

ハ一層繁キニ至ルヘク候得共、不取敢右実況及上申候也

明治卅二年八月十六日

川越税務署長　長野敬基

東京税務管理局長　桜井鉄太郎殿

（昭53　東京　81）

25　明治32年9月　松本局の税務研究会会則

客年八月大蔵大臣訓示ニ係ル、税務執行大方針ノ好果ヲ収ムルト否トハ、一ニ当局者ノ双肩ニ懸ルヲ以テ、爾来本局ハ之レカ施設ヲ怠ラス著々其歩ヲ進メツヽアリシモ、本年一月以降地価修正等ノ如キ臨時事務一時ニ輻湊シ、為メニ施設ノ完カラシムルノ余地ナカリキ、然レトモ今ヤ此等ノ事務モ漸ク局ヲ結ヒ、将ニ小康ヲ告ケムトスルヲ以テ、予テ施設ノ一端トシテ税務研究会則ヲ定メ茲ニ之ヲ頒ツ、和衷協賛以テ円満ナル好果ヲ収メラレムコトヲ望ム

明治三十二年九月七日

松本税務管理局長　飯塚忠成印

須坂税務署長　関谷久太郎殿

税務研究会々則

第一条　本会ハ租税ニ関スル法規ヲ研究シ、税務ノ進捗及改善ヲ図ルヲ以テ目的トス

第二条　本会ハ局署員ヲ以テ組織シ税務研究会ト称ス

第三条　本会ハ本部ヲ本局内ニ、支部ヲ税務署内ニ置ク

第四条　本会ニハ左ノ職員ヲ置ク

会　長　一　名

支部長　廿四名

幹　事　本部三名　各支部若干名

第五条　会長ハ局長、支部長ハ署長之レニ当ルモノトス

幹事ハ会長又ハ支部長之ヲ指名ス、但シ支部幹事ハ支部長ニ於テ兼掌スルコトヲ得

第六条　会長ハ会務ヲ統轄シ、支部長ハ支部ノ会務ヲ掌理ス

幹事ハ会長又ハ支部長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事スルモノトス

第七条　本会ハ毎月三回以上本部及支部ニ於テ開会スルモノトス、但シ必要アル場合ハ臨時開会スルコトヲ得

第八条　本会ノ議決ハ多数決ニヨル、可否同数ナルトキハ会長又ハ支部長之レヲ決ス、但シ支部ニ於テ決シタル事項ニシテ重要ナリト認ムルモノハ、其ノ要領ヲ会長ニ報告スルモノトス

議決ノ要領ハ別紙様式ノ議事録ニ記載スルモノトス

第九条　会長ハ前条第一項但書ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ、其ノ要領ヲ当該支部長ニ通知スルコトアルヘシ

第十条　会員事故アリテ欠席スルトキハ、其ノ旨会長又ハ支部長ニ申出ヘシ

松本税務管理局

庶務課長　渡辺正三印

須坂税務署長　関谷久太郎殿

税務研究会則ニ依リ講究スヘキ法規ハ、敢テ局署同一ヲ要セサル儀ニハ候得共、局署ノ連絡ヲ通スルト、会則第八条但書ノ場合ニアツテ本局ハ之カ調査ノ便宜モ有之候間、可成同一ノ法規ヲ講究セラルヽコトヽシ、其書目ハ左ニ記載ノ順序ニ依ラルヽ様致度

右依命及内牒候也

一　営業税法
二　徴収法
三　酒造税法、混成酒税法
四　所得税法
五　印紙税法
六　登録税法
七　会計法、会計規則
八　地租条例
九　醤油税法
十　売薬規則、同印紙税規則
十一　間接国税犯則者処分法
十二　不動産登記法

明治三十二年十月二十五日

松本税務管理局
庶務課長　渡辺正三

須坂税務署長　関谷久太郎殿

（平2　関信　30）

26　明治32年9月　横浜局の税法研究会会則

拝啓　税務執行上局署ニ於テ発生スル各般之疑問ヲ討議研究センカ為メ、当局内ニ税法研究会ヲ設置シ、別紙之通リ会則規定相成候ニ付、税務上之質議事項続々本会へ提出相成候様、貴署員へ御示指相成度、此段申進候也

明治三十二年九月二十日

横浜税務管理局ニ於テ
税法研究会幹事
梅津　連㊞

藤沢税務署
宇佐美次郎八殿

税法研究会々則

第一条　本会ハ税務執行上局署ニ於テ発生スル各般ノ疑問ヲ討議研究スルモノトス

第二条　本会ハ会長一名、幹事一名、評議員十四名、書記二名ヲ以テ組織スルモノトス

第三条　本会ハ会長ニ於テ随時必要アリト認ムルトキ開会スルモノトス

第四条　本会ノ幹事・評議員・書記ハ会長之ヲ指命スルモノトス

第五条　幹事ハ会長ノ命ヲ受ケ会務ヲ処理スルモノトス

第六条　評議員ハ会長ヨリ提出スル議案ニ就キ討議シ、書記ハ議事ヲ筆記スルモノトス

第七条　局署員ニシテ税務上質議事項アルトキハ、自由ニ本会ニ提出シ得ルモノトス

但、課員ハ課長、署員ハ署長ノ認印ヲ受クヘシ

税法研究会

会　長　斎藤重高

幹　事　梅津　連

評議員　河田貫三

同　河田哲哉

同　安倍多計志

同　古川敬親

同　佐藤勇次郎

同　城　正隆

同　太田猛司

同　中筋栄二郎
同　内山栄一郎
同　福知泉太郎
同　草場辰次郎
同　石原　憲
同　加来竹次郎
同　水野静恵
書記　古川敬親
同　加来竹次郎

（昭52　東京　1）

27　明治33年2月　広島局の税務講習会内規

内訓第一号

諸般ノ法制漸ク整備スルト同時ニ税法ノ改正モ稍一段落ヲ得、今後ノ良績ハ専ラ執行者ノ技能ニ俟タサルヘカラス、税務ノ執行上法規ヲ正当ニ解釈シ機宜ヲ失セス、措弁其宜キヲ得ンニハ従事者ニ相当ノ素養アルヲ要スルハ勿論、予テ忠実其職務ニ尽スノ品性ヲ修養セシムルヲ必要トス、直税事務ニ従事スル者ニ関シテハ、客年署長会同ノ際親シク訓示スル所アリ、爾後注意セラルヽ事ト信ス、間税事務ニ従事スル官吏ニ於テモ此必要ハ同様ナルヲ以テ、直税間税

共ニ良好ノ成績ヲ得ルコトニ一層配心アランコトヲ望ム、就テハ収税官吏ノ実力ヲ養成スルノ目的ヲ以テ、左記ノ如ク税務講習会内規ヲ設ケ、来ル四月一日ヨリ施行セントス、然レトモ一時ノ講習ヲ以テ猶足レリトセス、其署ニ於テモ事務ノ繁閑ヲ図リ研究会ヲ開キ、署員相互ニ研鑽シ常ニ新思想ヲ養ヒ世運ノ進歩ニ後レサル様深ク注意スヘシ

明治三十三年二月十三日　　広島税務管理局長　岩崎奇一印

可部税務署長　高野勇五郎殿

税務講習会内規

第一条　広島税務管理局ニ於テ税務講習会ヲ開キ、収税官吏ノ実力ヲ養成スルヲ以テ目的トス

本会ハ広島税務管理局ノ局署員ヲ以テ組織ス

第二条　講習会ハ凡ソ二ケ月ヲ以テ一期トシ、直税・間税・庶務ノ三部ニ分チ、各其事務ノ間ナル時ヲ図リ之ヲ開ク

第三条　講習員ハ毎期凡ソ四十名トシ局署員中ニ就キ之ヲ選定ス、但税務署ヨリ召集スルモノハ講習中本局ニ在勤セシメ旅費ヲ支給セス

第四条　講習会ノ講師ハ局署員ヲ以テ之ニ充ツ、但外国語ノ講師ハ時宜ニ依リ他ニ嘱託スルコトアルヘシ

第五条　講習科目ハ凡ソ左ノ如シ

一　税法及関係令規

二　法律ノ大要

三　税務執行ノ手続及服務心得

四　酒類ノ鑑定及技術ニ関スル学理並実地応用

五　税務ニ必要ナル外国語、但英訳税法ニ拠ル

第六条　講習ニ関スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第七条　本会ハ実力養成ノ目的ヲ達センガ為ニ必要ナル雑誌ヲ発刊シ、講習員タラサル局署員ニモ購読ノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

（平4　広島　2-1）

28　明治33年6月　見習員講習における主税局長演説

間秘第二九号

主税局長演説筆記別紙送付有之候処、右ハ一般ノ執務上ニ付テモ参考トナルヘキ点可有之ト存候ニ付、為参考及送付候也

明治三十三年六月二十五日

宇都宮税務管理局

司税官　志方之謙印

足利税務署長　大岩次知殿

主税局長［目賀田種太郎］演説筆記

這回東京税務管理局ニ於テ各地方ノ見習員カ税務ニ関スル講習ヲ為スニ方リ、各員ノ心得迄ニ述ヘ置カント欲スルモ

ノ三点アリ

其第一ニハ各員ハ此ニ見習員トシテ講習ヲナスニ付テハ、宜シク一般官吏ノ服膺スヘキ事柄ヲ見習ハルヘシ、即チ第一ニ各員ハ篤ク官吏服務規律ヲ心得サルヘカラス、又第二ニハ所属税務管理局長ノ定メタル税務官吏ノ服務心得ヲ学フコトヲ要ス、茲ニ時ニ各員ニ向テ之ヲ述フルノ要ハ、抑モ各員ノ見習タル一般官吏ノ見習トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノアリ、普通ノ官庁ノ見習ナルモノハ一般ノ規程タル文官見習規程ニ基キ設ケラルヽモノナルモ、各員ノ見習タルハ此規程以外ニ特別ノ勅令ヲ以テ設置セラレタルモノナレハ、宜シク其設置ニ付キ重要ナル趣旨ノ在ル所ヲ記憶セラルヘシ、今ヤ各種ノ税法整理ノ際ニ当リ税務執行上益々技手ノ必要ヲ感シ之カ養成ヲ行フト、又之ヲ養成スルニハ普通ノ見習ト異ニシ特ニ有給ノ取扱ヲナス所以ハ、一ニ各員ヲシテ専心一意力ヲ講習ニ注カシメ、以テ完全ナル練習ヲ遂ケシムルノ趣旨ニ外ナラス、故ニ各員ノ見習タル亦彼ノ一般普通ノ見習ト性質ニ於テ差異ナシト雖モ、各員ノ習得スヘキ事項ハ専ラ其専門技術的ナル職務上ノ事ニ重キヲ置カサルヘカラサルカ故ニ、各員ハ第一ニ官吏服務規律ヲ服膺セサルヘカラス、官吏服務規則ハ帝国政府カ帝国ノ官吏ニ下シタル服務規律ノ大綱ナルヲ以テ、官吏タルモノヽ須臾モ其身ヲ離スヘカラサルモノナリ、凡官吏ハ公私ノ別ナク官庁ノ内外ヲ問ハス、苟クモ官吏タル以上ハ平素服務規律ヲ遵行シ之カ覊束ヲ受クヘキハ固ヨリ其所ニシテ、服務規律ノ大綱ハ造次顛沛ニモ尚遺ルヽコト能ハサルモノナリ、抑モ服務規律ノ大綱ハ一見頗ル容易ナルカ如ク思考セラルヽモ、之カ実行ニ至リテハ又決シテ容易ナラサルモノアルナリ、蓋シ之ヲ読ムハ易キモ之ヲ行フハ難ク、能ク読ミ能ク解スルモ実際之ヲ遵行スルニ非スンハ未タ以テ十分ニ服務規律ヲ解シタルモノト云フヘカラス、之ヲ行フニハ精々各員ノ心掛ヲ要スルナリ、第二ニ税務管理局長ノ定メタル税務官吏ノ服務心得ハ、税務官吏カ職務ノ内外ニ亘リ心得フヘキ服務規律ノ細目ナリ、之亦一見輙ク解セラルヽカ如キモ決シテ容易ニ理解セラルヽモノニアラス、宜シク之ヲ熟読玩味シ進ンテ之ヲ各自カ行為上ニ践行スルコトヲ以テ

旨トスヘシ、蓋シ執務上ノ言語措置等ニ於テモ必ス一定ノ練磨ヲ経スンハ決シテ円満ノ効果ヲ奏シ難キノミナラス、尚進ンテハ時局ノ変遷ニ応シ絶エス発生シ来ル種々ノ事項ニ、処シテ自ラ適当ノ措置ヲ為スノ工夫ナカルヘカラス、故ニ各員ハ平素能ク之ヲ研究シ又之ヲ長官ノ説明ニ聴キ、以テ各自カ執務上ノ増益ヲ計ラハ、従テ又一般ノ税務上増益ヲ及ホスコト尠ナカラサルヘシ、而シテ服務心得ノ実蹟ヲ挙クルニ容易ナラサルハ現今尚各局長ヨリ均シク聞ク処ナリ、今之ヲ例セハ日常諸般ノ行政事務執行上ニツキ、各分掌ニ長タル者カ執務上ノ命ヲ伝ヘ之ニ部属スル者カ命ヲ承クルニ方リ、命ヲ伝フルモノ並ニ之ヲ承クルモノ共ニ些少ノ難事ナキカ如シト雖トモ、之ヲ伝フルノ難キハ伝ヘラルヽノ難キニ等シキモノアリ、今十人ノ承命者アリテ一斉ニ能ク伝告者ノ主意ヲ解シ之ヲ行フコトヲ得ハ至幸ナリト雖トモ、多数ノ内或者ハ理解ノ程度ヲ異ニシ又其解シ方ニ至リテモ人ニヨリテ差違アルコトアルヘク、一ハ重ク他ハ軽キニ失スル等往々伝告者ノ趣旨ヲ誤リ、甚シキハ全ク伝告ノ趣旨ヲ遺忘スルカ如キモノアリ、故ニ命ヲ伝フル者モ平常其伝ヘ方ヲ習練シ、伝ヘラルヽ者ヲシテ能ク解シ能ク行ハシムルノ道ヲ講シ、伝告ヲ承クル者モ亦常ニ伝告ノ趣旨ヲ誤マラサルコトニ注意セサルヘカラス、凡ソ命令ヲ長官ニ承ルモノ之ニ対シ疑ヲ質スカ如キハ固ヨリ当然ノコトナリト雖トモ、往々命令ヲ承ル中徒ラニ質議反問シテ命令ノ事項ヲ不明ニシ、又之ヲ遺忘スルカ如キコトアルハ大ニ不可ナリ

服務心得中又規程ノ細密ニ渉リ特別ノ事務ニ対シ執務心得ヲ定メタルカ如キモノアルモ、之ヲ解釈スルニ方リテハ尚細密ノ注意ヲ加ヘ能ク其趣旨ノ在ルトコロヲ考察セサルヘカラス、例セハ服務心得中懇切ナルコトヲ務ムヘシトノ規程アリ、而シテ之カ取扱ノ程度ハ如何之ヲ行為ニ表スヘキヤ、或ハ言語ノ上ニ注意スヘキカハ、蓋シ細密ノ研究練磨ヲ経サレハ十分ニ其趣旨ヲ了解スルコト能ハサルヘシ、単ニ丁寧ト云フモ唯リ己ヲ屈抑シテ人ニ譲ルノ謂ニアラス、其能ク時宜ニ適スルニ至ルハ又タ日常練熟ノ結果ニ俟タサルヘカラス、服務心得ノ重要ニシテ而モ之ヲ遵行スルノ難

キ夫レ此ノ如シ、各員須ク之カ攻究ニ勉ムヘシ

第二ニ述フヘキハ各員カ将来ニ於テ執ルヘキ事務上ノ事ナリ、抑モ技手ハ官制上技術官タリ、税務管理局技手ハ技術上ノ智識ヲ具ヘ課税物件ニ付テ技術上ノ鑑定ヲナスコトヲ掌ル、故ニ其職務ハ全ク普通ノ行政官ト異ナリ、例令ハ茲ニ課税物件ニ関シテ一ノ疑問ヲ生シ、物件ノ性質ニ由リテ課税ノ範囲内ナルヤ否ヤヲ決スヘキ場合ニ於テハ、技手ハ其平素修得シタル技術上ノ智識ヲ以テ物件ノ性質ヲ鑑定シ、行政官ハ之ニヨリテ物件ノ性質ヲ知リ、其課税ノ範囲内ナルヤ否ヤヲ法規ニ基キテ決定スルナリ、故ニ技手ト普通ノ行政官トハ明ニ其職責ヲ別チ、各其執ル所ヲ守リ苟モ他ノ事務ニ干渉セサルヲ要ス、事件ノ性質ニヨリ或ハ行政官ニ於テ技手ノ鑑定ニ従ハサルコトモアルヘシ、然レトモ技手タルモノハ己カ技術上特有ノ智識ヲ以テ、充分ニ物質上ノ鑑定ヲナセハ足ルカ故ニ、行政官カ其鑑定ニ従フヤ否ヤハ毫モ顧慮スル所ニアラス、技手ハ斯ク行政官ト独立シテ物件ノ技術上ノ鑑定ヲ掌ルモノナルニヨリ、従テ之ニ要スル技術上ノ智識ハ、平素十分ニ鍛錬蘊蓄セサルヘカラス

輓近各種税法ノ整理ト共ニ課税ノ範囲漸次拡張セラレ、課税ノ方法ニ至リテモ在来ノ旧慣ヲノミ墨守スル能ハサルニ至レリ、例ヘハ酒税ノ如キ近来種々異例ノ酒類ヲ製出スルヲ以テ、之カ課税ノ方法モ従来ノ規程ヲ以テ適当トナスヤ否ヤ疑ヲ生シ来レリ、現今各税務管理局ニ専職ノ技手ヲ置キ専ラ課税物件ノ鑑定ヲ為サシムルモ、畢竟世ノ進歩ニ伴ハシムル趣旨ニ外ナラス、故ニ茲ニ一物件ニ関シ疑アレハ官庁ハ先ツ所属ノ技手ニ命シ技術上其性質ヲ鑑定セシメ、行政官ハ又此鑑定ニ基キテ之ニ法規ヲ適用シ、両者各自己ノ職分ヲ守リテ互ニ相超脱セサルニ至リ、始メテ能ク円滑ノ効ヲ奏スルコトヲ得ヘシ、之レ蓋シ技手ヲ以テ技術上専職ノモノトシ、行政官ト独立ノ地位ヲ有セシムルノ制度ヨリ来ル結果ナリ、然レトモ之ニ反シ行政官自カラ普通ノ眼識ヲ以テ物件ノ鑑定ヲナスカ如キコトアレハ、其間往々ニシテ議論ヲ生シ円滑ヲ欠クノ弊ヲ免カレス、現今関税ノ制度ノ如キ漸ク発達ノ域ニ達シ、例セハ課税物件ニツキ疑ヲ

生シタルトキハ之ニ関スル専職ノ鑑定官アリテ、各特有ノ智識ニヨリ技術上ノ手段ヲ尽シテ其性質ヲ鑑定シ、而シテ行政官ハ其鑑定ノ結果ニ基キ執行ヲナスカ故ニ、其間更ニ意見ノ衝突ヲ来等ノ虞ナキ而已ナラス、人民ニシテ処分ニ不服ナルトキハ之ニ対シ関税訴願ヲナスノ道ヲ開ケリ、税務管理局ノ技手ニ於ケル猶関税ト同一ノ取扱ニ出テシムル趣旨ニ外ナラスト雖トモ、技手ノ人員充実セサルト間々兼務ヲナセル者アル等ヨリシテ、現今未タ前述ノ如キ執務ノ分界ヲ明確ナラシムルノ運ヒニ至ラサルナリ、此ノ如ク技手ハ税務管理局ニ於ケル特別ノ機関トシテ、税務執行上重要ノ補助ヲ与フヘキ責任アルモノナレハ、各員ノ如キ今後専心此技術上ノ智識ヲ修得シ、以テ他日之ヲ実務ニ応用スル準備ナカルヘカラス

第三ニ各員カ毎日此一堂ニ会シテ修得スヘキ事項ノ梗概ニ付テハ、先ニ第二ニ述ヘタル所ノ如シ、而ルニ各員カ此講堂ニ臨ムニ方リテハ各員ノ属スル各局長ニ於テモ夫々訓示セラレシコトナランカ、尚余カ茲ニ特ニ各員ノ注意ヲ喚起シ置カント欲スルモノハ他ナラス、各員ハ須ラク想ヲ宏遠ニシ学フ所ヲ精密ニシ、此講堂ニ於ケル講習ハ短期日ニ過キスト雖トモ、尚各自ノ講習ハ将来永久ニ持続スルコトヽ覚悟シ、学科ノ如キモ単ニ此講習ノミニ満足セス、向後益々奮テ自ラ攻究啓発スルコトヲ期スヘシ、尚講習中精励勤勉志想ヲ精緻ナラシメ行為ヲ慎重ニ持シ、以テ余カ第二ニ述ヘシ目的ヲ完全ニ達セラレンコトヲ望ム

（平16　関信　53）

29　明治33年12月　私立法律学校講義録購読に付回答

講義録購読ノ件ニ付御談示之趣拝承致候、当署員ハ兼テ申合ノ上別紙ノ如キ会則ヲ設ケ、講義録又ハ相当ノ書籍ヲ購

読スルコトヽシ、相互ニ必要ナル智識ノ涵養ヲ企図致居訳ニ有之候、而シテ法律学校等ノ講義録ヲ購読シアルモノハ、左記ノ通ニ付御承知相成度、御答旁如斯ニ候

明治三十三年十二月十日

湯浅税務署ニ於テ
松本為八郎

渡辺義郎殿

記

東京専門学校　浜　宗三郎
和仏法律学校　山室亀太郎
東京法学院　吉原久太郎
大日本新法典講習会　泉川喜二郎
明治法律学校　渋谷一雄
大日本新法典講習会　野田良穂

「速ニ（朱書）御一覧ノ上、回尾ヨリ下名ヘ御記相成度候」

講義録購読方ニ関シ別紙之通談示有之、回答ヲ要シ候ニ付、自今新ニ和仏法律学校校外生タル希望ノ有無、及現ニ購読セラルヽ講義録有之候ハヽ、其名称等左ニ御示シ可被下候　敬具

十二月十日

湯浅税務署在勤
各位

松本為八郎㊞

和仏法律学校　明治三十三年度講義録全部　初号以来引続購読中　山室亀太郎㊞
東京専門学校講義録　明治廿一年ヨリ引続購読　浜　宗三郎㊞
本年一月ヨリ明治法律学校々外生トナリ講義録購読中　渋谷一雄㊞
大日本新法典講習会へ本年一月入会、講義録初号ヨリ引継購読　泉川喜二郎㊞
同　上　野田良穂㊞
東京法学院へ本年一月校外生トシテ入学、目下第二学年講修中　吉原久太郎㊞
三十三年度和仏法律学校講義録全部購読志望ニ有之候　橘　貞良㊞

曩ニ若槻礼次郎氏ノ紹介ニヨリ和仏法律学校講義録ノ義申進候処、他法律学校ハ概ネ月五拾銭ノ代価ナレトモ、右和仏校ハ特別ニテ官吏ニ限リ月弐拾五銭ニテ弐冊ツヽ送付シ、且若槻氏ノ税法ニ関スル講義モ登載シアリ極メテ有益ト存候ニ付、可成各位ハ努メテ御購読相成候様致度ト存シ、茲ニ及御相談候也

追而、今日迄右校之講義又ハ他之講義等御購読之有無、各位限リ之区別ヲ為シ参考ノ為メ御回シ相成候様致度候、要ハ御互ニ学識ヲ増進スルノ望ミニ外ナラス候

明治三十三年十二月五日　渡辺義郎

松本為八郎殿

（平18　大阪　19）